

(様式第10)

長大病総第0533 号

令和 7 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人 長崎大学長

永 安 武

長崎大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒852-8521 長崎県長崎市文教町1番14号
氏名	国立大学法人 長崎大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

長崎大学病院

3 所在の場所

〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7番1号
電話(095)819-7200

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科					有		
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
○	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
○	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
内分泌内科及び代謝内科については、内分泌・代謝内科で対応している。 アレルギー疾患内科については、皮膚科等で対応している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
乳腺外科及び内分泌外科については、乳腺・内分泌外科で対応している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科		6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	泌尿器科・腎移植外科	2	形成外科	3	内分泌・代謝内科	4	乳腺・内分泌外科	5	病理診断科
6	移植外科	7	脳神経内科	8	胃・食道外科	9	大腸・肛門外科	10	肝臓・胆のう・膵臓・移植外科
11	リハビリテーション科	12	臨床検査科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
39	2	6	0	729	776

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	588	7.1	595.1	看護補助者	65	診療エックス線技師	0
歯科医師	129	12.2	141.2	理学療法士	30	臨床検査技師	91
薬剤師	66	0	66	作業療法士	11	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	9	その他	0
助産師	38	0	38	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	935	9	944	臨床工学士	32	医療社会事業従事者	12
准看護師	0	0	0	栄養士	3	その他の技術員	47
歯科衛生士	17	0	17	歯科技工士	5	事務職員	379
管理栄養士	20	0	20	診療放射線技師	48	その他の職員	19

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	104	眼科専門医	12
外科専門医	50	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	7	放射線科専門医	13
小児科専門医	22	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	21
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	31
産婦人科専門医	16	救急科専門医	14
		合計	331

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (尾崎 誠) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

- ・安全管理部長・安全担当副病院長 (平成30年4月～12月)
- ・医療安全管理委員会(医療安全に関する委員会) 委員長 (令和6年4月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	631.5 人	9.4 人	640.9 人
1日当たり平均外来患者数	1,263 人	330.8 人	1,593.8 人

1日当たり平均調剤数	3,060.76	剤
必要医師数	142.088	人
必要歯科医師数	17.715	人
必要薬剤師数	38.26	人
必要(准)看護師数	378.577	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	405.55 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	20 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 498.2 m ²		病床数	50 床		
	[移動式の場合] 台数		台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 136.1 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	243.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動生化学分析装置、血液ガス分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、全自動キャピラリー電気泳動装置、全自動免疫分析装置、全自動血液凝固測定装置、多項目自動血球分析装置、塗抹標本作成装置 等		
細菌検査室	185 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物検体処理システム、質量分析装置、全自動血液培養測定装置、全自動同定感受性検査装置、安全キャビネット、光学顕微鏡 等		
病理検査室	404 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	密閉式自動包埋装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、局所廃棄装置切り出し台、局所廃棄装置付検体保管庫、安全キャビネット、バーチャルスライド、スマートセクション、等		
病理解剖室	63.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、高圧滅菌装置、ホルマリン希釈装置、臓器乾燥装置、遺体保存冷蔵庫、教育用カメラシステム、等		
研究室	3,277 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット、電子顕微鏡、自動血液培養装置、質量分析装置、等		
講義室	562 m ²	鉄筋コンクリート	室数 2 室	収容定員 420 人		
図書室	142 m ²	鉄筋コンクリート	室数 1 室	蔵書数 14,072 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		90.6	%	逆紹介率		63.9	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			14,775		人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,664		人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,774		人	
	D: 初診の患者の数			18,260		人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学医学部附属病院医療安全管理部長	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
川添 志	山下・川添総合法律事務所 弁護士		医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者	無	1
飯田 由紀子			医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページにて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数 (人)
該当なし	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	0
取り扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	0人
テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	0人
シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	0人
生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん (大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類の合計数	4
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
該当なし			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	下垂体性TSH分泌亢進症	2
2	筋萎縮性側索硬化症	11	57	下垂体性PRL分泌亢進症	6
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	クッシング病	4
4	進行性核上性麻痺	2	59	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
5	パーキンソン病	64	60	下垂体前葉機能低下症	52
6	大脳皮質基底核変性症	2	61	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
7	シャルコー・マリー・トウス病	2	62	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
8	重症筋無力症	86	63	先天性副腎低形成症	1
9	多発性硬化症／視神経脊髄炎	63	64	アジソン病	1
10	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	11	65	サルコイドーシス	64
11	多系統萎縮症	7	66	特発性間質性肺炎	93
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	29	67	肺動脈性肺高血圧症	28
13	ライソゾーム病	9	68	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	22
14	副腎白質ジストロフィー	2	69	リンパ脈管筋腫症	8
15	ミトコンドリア病	9	70	網膜色素変性症	4
16	もやもや病	29	71	バッド・キアリ症候群	3
17	進行性多巣性白質脳症	2	72	特発性門脈圧亢進症	1
18	HTLV-1関連脊髄症	7	73	原発性胆汁性胆管炎	43
19	全身性アミロイドーシス	71	74	旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	
20	神経線維腫症	24	75	原発性硬化性胆管炎	6
21	天疱瘡	16	76	自己免疫性肝炎	10
22	表皮水疱症	3	77	クローン病	158
23	膿疱性乾癬(汎発型)	8	78	潰瘍性大腸炎	229
24	高安動脈炎	28	79	好酸球性消化管疾患	11
25	巨細胞性動脈炎	11	80	腸管神経節細胞僅少症	1
26	結節性多発動脈炎	15	81	クリオピリン関連周期熱症候群	2
27	顕微鏡的多発血管炎	58	82	若年性特発性関節炎	4
28	多発血管炎性肉芽腫症	23	83	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	84	TNF受容体関連周期性症候群	2
30	悪性関節リウマチ	30	85	先天性ミオパチー	1
31	バージャー病	3	86	筋ジストロフィー	7
32	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	87	アトピー性脊髄炎	1
33	全身性エリテマトーデス	305	88	脊髄空洞症	3
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	92	89	脊髄髄膜瘤	3
35	全身性強皮症	115	90	遺伝性ジストニア	1
36	混合性結合組織病	55	91	脳表ヘモジデリン沈着症	1
37	シェーグレン症候群	44	92	前頭側頭葉変性症	3
38	成人スチル病	17	93	限局性皮質異形成	1
39	再発性多発軟骨炎	5	94	神経細胞移動異常症	1
40	ベーチェット病	53	95	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	3
41	特発性拡張型心筋症	80	96	レノックス・ガストー症候群	2
42	肥大型心筋症	36	97	ウェスト症候群	1
43	再生不良性貧血	22	98	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	2
44	自己免疫性溶血性貧血	5	99	スタージ・ウェーバー症候群	1
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	100	結節性硬化症	2
46	特発性血小板減少性紫斑病	17	101	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	9
47	血栓性血小板減少性紫斑病	2	102	特発性後天性全身性無汗症	4
48	原発性免疫不全症候群	16	103	弾性線維性仮性黄色腫	8
49	IgA 腎症	56	104	マルファン症候群	7
50	多発性嚢胞腎	25	105	ウィルソン病	3
51	黄色靱帯骨化症	20	106	モワット・ウィルソン症候群	1
52	後縦靱帯骨化症	71	107	アペール症候群	1
53	広範脊柱管狭窄症	5	108	ウェルナー症候群	2
54	特発性大腿骨頭壊死症	44	109	ヌーナン症候群	1
55	下垂体性ADH分泌異常症	16	110	22q11.2欠失症候群	1
				修正大血管転位症	2
				単心室症	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	ファロー四徴症	4	128	強直性脊椎炎	28
112	アルポート症候群	3	129	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
113	急速進行性糸球体腎炎	2	130	後天性赤芽球癆	5
114	一次性ネフローゼ症候群	29	131	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
115	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	132	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	1
116	紫斑病性腎炎	7	133	胆道閉鎖症	8
117	間質性膀胱炎(ハンナ型)	19	134	IgG4関連疾患	25
118	オスラー病	5	135	黄斑ジストロフィー	1
119	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	136	好酸球性副鼻腔炎	36
120	肺胞低換気症候群	1	137	先天異常症候群	1
121	副甲状腺機能低下症	1	138	シトリン欠損症	1
122	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	6	139	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
123	フェニルケトン尿症	3	140	前眼部形成異常	1
124	肝型糖原病	3	141	無虹彩症	2
125	脳腱黄色腫症	1	142	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	2
126	脂肪萎縮症	1	143	特発性多中心性キャスルマン病	22
127	家族性地中海熱	38	144	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	144
合計患者数(人)	2889

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療に係る基準	緩和ケア診療加算
医療情報取得加算1・2	小児緩和ケア診療加算
医療DX推進体制整備加算3	小児個別栄養管理加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	精神科応急入院施設管理加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	精神病棟入院時医学管理加算
歯科外来診療感染対策加算4	精神科身体合併症管理加算
歯科診療特別対応連携加算	精神科リエゾンチーム加算
特定機能病院入院基本料（一般病棟 7対1）	摂食障害入院医療管理加算
特定機能病院入院基本料（結核病棟 7対1）	がん診療連携拠点病院加算(がん診療連携拠点病院)
特定機能病院入院基本料（精神病棟 7対1）	がんゲノム拠点病院加算
入院栄養管理体制加算	栄養サポートチーム加算
救急医療管理加算	医療安全対策加算1
超急性期脳卒中加算	感染対策向上加算1
診療録管理体制加算1	指導強化加算
医師事務作業補助体制加算1（15対1）	患者サポート体制充実加算
急性期看護補助体制加算(25対1・看護補助者5割以上)	重症患者初期支援充実加算
夜間100対1急性期看護補助体制加算(急性期看護補助体制加算)	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
夜間看護体制加算(急性期看護補助体制加算)	ハイリスク妊娠管理加算
看護補助体制充実加算2(急性期看護補助体制加算)	ハイリスク分娩管理加算
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	呼吸ケアチーム加算
療養環境加算	後発医薬品使用体制加算2
重症者等療養環境特別加算	病棟薬剤業務実施加算1
無菌治療室管理加算1	薬剤業務向上加算
無菌治療室管理加算2	病棟薬剤業務実施加算2
放射線治療病室管理加算1(治療用放射性同位元素による場合)	データ提出加算(2)
放射線治療病室管理加算2(密封小線源による治療)	入退院支援加算(1)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
入退院支援加算(3)	無菌治療管理加算2(小児入院医療管理料)
入院時支援加算(入退院支援加算)	養育支援体制加算(小児入院医療管理料)
認知症ケア加算1	
せん妄ハイリスク患者ケア加算	
精神疾患診療体制加算	
精神科急性期医師配置加算	
地域歯科診療支援病院入院加算	
排尿自立支援加算	
地域医療体制確保加算	
救命救急入院料1	
精神疾患診断治療初回加算(救命救急入院料)	
救急体制充実加算1(救命救急入院料)	
高度医療体制加算(救命救急入院料)	
小児加算(救命救急入院料)	
早期離床・リハビリテーション加算(救命救急入院料)	
特定集中治療室管理料2	
算定上限日数に係る施設基準(特定集中治療室管理料)	
小児加算(特定集中治療室管理料)	
早期離床・リハビリテーション加算(特定集中治療室管理料)	
ハイケアユニット入院医療管理料1	
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	
新生児特定集中治療室管理料2	
総合周産期特定集中治療室管理料1(母体・胎児集中治療室管理料)	
新生児治療回復室入院医療管理料	
小児入院医療管理料2	
プレイルーム、保育士等加算(保育士2名以上の場合)(小児入院医療管理料)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	外来腫瘍化学療法診療料1
外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	外来腫瘍化学療法診療料の注6に規定する連携充実加算
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
慢性維持透析患者外来医学管理料の注3の加算 腎代替療法実績加算	ニコチン依存症管理料
喘息治療管理料	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
糖尿病合併症管理料	がん治療連携計画策定料
がん性疼痛緩和指導管理料	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料イ	外来排尿自立指導料
がん患者指導管理料ロ	ハイリスク妊産婦連携指導料1
がん患者指導管理料ハ	ハイリスク妊産婦連携指導料2
がん患者指導管理料ニ	プログラム医療機器等指導管理料(高血圧症治療補助アプリを用いる場合)
外来緩和ケア管理料	薬剤管理指導料
移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)	検査・画像情報提供加算／電子的診療情報評価料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	医療機器安全管理料1
糖尿病透析予防指導管理料	医療機器安全管理料2
小児運動器疾患指導管理料	がんゲノムプロファイリング評価提供料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	在宅療養後方支援病院
婦人科特定疾患治療管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
腎代替療法指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
一般不妊治療管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料1	遺伝学的検査
二次性骨折予防継続管理料3	遺伝学的検査の注2に規定する施設基準
下肢創傷処置管理料	染色体検査 流産検体を用いた絨毛染色体検査
院内トリアージ実施料	骨髄微小残存病変量測定
外来放射線照射診療料	BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
BRCA1/2遺伝子検査(血液を検体とするもの)	内服・点滴誘発試験
がんゲノムプロファイリング検査	センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
先天性代謝異常症検査	経頸静脈的肝生検
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
抗HLA抗体(スクリーニング検査)／抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	経気管支凍結生検法
HPV核酸検出	ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS－CoV－2核酸検出を含まないもの)	CT撮影／MRI撮影
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	冠動脈CT撮影加算
検体検査管理加算(Ⅳ)	外傷全身CT加算
国際標準検査管理加算	大腸CT撮影加算
遺伝カウンセリング加算	心臓MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	乳房MRI撮影加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	小児鎮静下MRI撮影加算
時間内歩行試験／シャトルウォーキングテスト	頭部MRI撮影加算
胎児心エコー法	全身MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	画像診断管理加算4
皮下連続式グルコース測定	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
長期継続頭蓋内脳波検査	無菌製剤処理料
長期脳波ビデオ同時記録検査1	外来化学療法加算1
終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳波検査判断料1	(心大血管疾患リハビリテーション初期加算)
神経学的検査	(心大血管疾患リハビリテーション急性期リハビリテーション加算)
補聴器適合検査	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
ロービジョン検査判断料	(脳血管疾患等リハビリテーション初期加算)
小児食物アレルギー負荷検査	歯科口腔リハビリテーション料2

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
(運動器リハビリテーション初期加算)	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
(呼吸器リハビリテーション初期加算)	後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
がん患者リハビリテーション料	椎間板内酵素注入療法
経頭蓋磁気刺激療法	緊急穿頭血腫除去術
精神科作業療法	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
医療保護入院等診療料	内視鏡下脳腫瘍生検術
多血小板血漿処置	内視鏡下脳腫瘍摘出術
硬膜外自家血注入	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)／脳刺激装置交換術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)
人工腎臓	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
導入期加算3	仙骨神経刺激装置植込術／仙骨刺激装置交換術
透析液水質確保加算	角結膜悪性腫瘍切除術
慢性維持透析濾過加算	角膜移植術(内皮移植加算)
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	羊膜移植術
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	緑内障手術 眼内法
ストーマ合併症加算	緑内障手術 その他のもの
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療に係るものに限る。)	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
処置の休日加算1／時間外加算1／深夜加算1	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	緑内障手術 濾過胞再建術(needle法)
自家脂肪注入	毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	網膜再建術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型骨導補聴器植込術	内視鏡下筋層切開術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 高速回転式経皮経管アテクトミーカテーテルによるもの
人工中耳植込術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテルによるもの
人工中耳用材料	胸腔鏡下弁形成術
人工内耳植込術	胸腔鏡下弁置換術
植込型骨導補聴器移植術／植込型骨導補聴器交換術	経カテーテル大動脈弁置換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	経皮的僧帽弁クリップ術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)/下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	ペースメーカー移植術／ペースメーカー交換術
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	ペースメーカー移植術／ペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)/乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)/両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)/植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)/両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
気管支バルブ留置術	補助人工心臓
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 4気管支形成を伴う肺切除	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
同種死体肺移植術	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
生体部分肺移植術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)/内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術/胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)/小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)/結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)/腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)/尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)/膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)/腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃全摘術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	腹腔鏡下副腎摘出手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出手術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	腹腔鏡下小切開腎部分切除術
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	腹腔鏡下小切開腎摘出術
腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下肝切除術	腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)	同種死体腎移植術
生体部分肝移植術	生体腎移植術
同種死体肝移植術	膀胱水圧拡張術
腹腔鏡下膀胱腫瘍摘出術	ハンナ型間質性膀胱炎手術
腹腔鏡下膀胱中央切除術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下膀胱頭部腫瘍切除術	膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)
腹腔鏡下膀胱頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	埋没陰茎手術
同種死体膀胱移植術	精巣温存手術
同種死体膀胱腎移植術	陰嚢水腫手術 鼠径部切開によるもの
同種死体小腸移植術	陰嚢水腫手術 その他
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下仙骨腔固定術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算(全乳房照射)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算(前立腺照射)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	定位放射線治療
胎児胸腔・羊水腔シャント術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
体外式膜型人工肺管理料	画像誘導密封小線源治療加算
輸血管理料Ⅰ	デジタル病理画像による病理診断
貯血式自己血輸血管理体制加算	病理診断管理加算2
自己生体組織接着剤作成術	悪性腫瘍病理組織標本加算
自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	保険医療機関間の連携による病理診断
同種クリオプレシピテート作製術	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	歯科治療時医療管理料
手術の休日加算1／時間外加算1／深夜加算1	看護職員処遇改善評価料69
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	入院ベースアップ評価料87
乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	歯科訪問診療料の注13に規定する基準
麻酔管理料(Ⅰ)	口腔細菌定量検査
周術期薬剤管理加算(麻酔管理料(Ⅰ))	有床義歯咀嚼機能検査1のイ／ロ
麻酔管理料(Ⅱ)	有床義歯咀嚼機能検査2のイ／ロ
周術期薬剤管理加算(麻酔管理料(Ⅱ))	咀嚼能力検査
放射線治療専任加算	咬合圧検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
精密触覚機能検査	
睡眠時歯科筋電図検査	
歯科画像診断管理加算1	
歯科画像診断管理加算2	
手術用顕微鏡加算	
口腔粘膜処置	
歯根端切除手術の注3	
歯周組織再生誘導手術	
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)/下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	
顎関節人工関節全置換術(歯科)	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	
レーザー機器加算	
歯科麻酔管理料	
周術期薬剤管理加算(歯科麻酔管理料)	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
う蝕歯無痛的窩洞形成加算	
光学印象	
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	
歯科矯正診断料	
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
口腔病理診断管理加算2	
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)	
入院時食事療養(Ⅰ)・入院時生活療養費(Ⅰ)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	163回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	12
	剖検率(%)	4.3

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ
(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
灌流型3次元血液脳関門モデルを用いた中枢神経系疾患治療薬の開発	諸藤 陽一	脳神経外科	3,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
地域医療情報システムを用いた脳卒中・心疾患共通レジストリ構築と予後予測因子の探索	立石 洋平	脳神経内科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Trained immunityによるアトピー性気管支喘息根治療法の開発	深堀 範	呼吸器内科 (第二内科)	705,412	補委	独立行政法人日本学術振興会
ウルトラファインバブル(ナノバブル)水を使用した創傷治癒促進戦略	大石 海道	腫瘍外科 (第一外科)	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
悪性腸腰筋症候群の病態に筋紡錘が与える影響の解明と疼痛コントロール方法の検討	石井 浩二	麻酔科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
カルシウムハンドリング制御による敗血症性心筋症の治療戦略	吉富 修	麻酔科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
β -シクロデキストリンの包接および除放作用を応用した新規根管貼薬剤の開発	柳口 嘉治郎	歯科保存治療室 (保存・補綴歯科)	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
多施設共同研究による舌癌予防郭清の適応決定、バイオマーカー検索と組織バンクの構築	大鶴 光信	口腔顎顔面外科 (第一口腔外科)	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ペムブロリズマブの治療効果予測に関する薬剤感受性機構の解明	鳴瀬 智史	口腔顎顔面外科 (第一口腔外科)	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔がんの進展・転移における低酸素環境下でのcPLA2の働き	佛坂 由可	矯正歯科 (歯科矯正学)	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん化学療法誘発口腔粘膜炎に対するTNF- α アンタゴニストの効果についての検討	吉松 昌子	口腔管理センター	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遠隔専門医療支援におけるサイバーコンサルテーションの有用性の検討	辻野 彰	脳神経内科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ICT連携の検査データ共有による糖尿病コントロールと歯周治療の数値的関係の解明	山下 利佳	口腔管理センター	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PK/PDモデルを用いたVenetoclax最適投与法の確立	里 加代子	薬剤部	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析を用いた肺動脈性肺高血圧症のバイオマーカーの網羅的探索	江口 正倫	循環器内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹膜線維化におけるマクロファージの極性の関与と新規治療法への応用	西野 友哉	腎臓内科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
蛋白質メチル化酵素によるDNA修復機構を標的とした骨髄性腫瘍の新規治療法の開発	糸永 英弘	血液内科 (原研内科)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
家族性地中海熱の病態における免疫老化の意義を明らかにする研究	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科 (第一内科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
好中球活性化に着目した強皮症合併肺高血圧症の早期診断・治療標的の包括的同定と展開	井川 敬	リウマチ・膠原病内科 (第一内科)	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細菌毒素の病原性における宿主因子GILTの働きに関する基礎および臨床研究	高橋 健介	高度救命救急センター (救急科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳癌における新規リンパ節転移診断キットの術前薬物療法症例への適応拡大	大坪 竜太	腫瘍外科 (第一外科)	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
組織融合技術を用いた直腸吻合器の開発と縫合不全予防のマネージメントの確立	野中 隆	腫瘍外科 (第一外科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HLA-G誘導MSCによる局所免疫の抑制機序解析と免疫抑制性バイオマテリアル開発	田上 幸憲	腫瘍外科 (第一外科)	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
SGLT阻害薬が心筋虚血再灌流障害時の内在性臓器保護効果に与える影響と機序解明	一ノ宮 大雅	麻酔科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肥大心のメタボローム解析と薬理学的コンディショニングにおけるNAD+合成系の制御	岩崎 直也	集中治療部 (麻酔科)	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
トランスクリプトーム解析から展開するパターン認識を応用した病態解析法の基盤構築	田島 吾郎	高度救命救急センター	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規肺特異的疑似毛細血管壁モデルによるARDS病態解明と治療開発	田中 健之	感染制御教育センター	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
絨毛性疾患と関連するcircularRNAの同定とその臨床的意義に関する研究	長谷川 ゆり	産科婦人科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
羊膜チューブキャッピングによる外傷性神経腫の制御	岩尾 敦彦	形成外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臍帯由来間葉系幹細胞からの骨芽細胞分化におけるPrrx1の影響	江頭 寿洋	口腔管理センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
マイクロラーニングによる技術修得系研修のICT教育は対面での実技研修を超える	野上 朋幸	口腔管理センター	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オンラインでの双方向性連携を活用した県内の医療施設での糖尿病治療標準化への有効性	鎌田 昭江 (森内 昭江)	糖尿病診療支援センター(第一内科)	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
遠隔医療支援システムが医療種の業務負担に与える影響についての検討	田浦 直太	病床管理センター	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工呼吸器関連肺炎予防のためのハイブリッド口腔ケア材料の創製	中尾 紀子	口腔管理センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
チョークサインより早く窒息の予兆をAIが見極める食事モニターの開発	玉田 泰嗣	義歯補綴治療室(保存・補綴歯科)	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症の痛覚・温冷覚における感覚処理パターンの同定	山本 直毅	精神科神経科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ロボット支援手術チームが作る映像教材とトレーニング機器による教育システムの構築	光成 健輔	泌尿器科・腎移植外科	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
悪性神経腫に対する脂質ナノ粒子を利用した核酸医薬の脳指向型薬物送達法の確立	松尾 彩香	脳神経外科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
複数の癌特異的代謝をターゲットとする新規肝癌代謝薬創薬への基盤研究	三馬 聡	消化器内科	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プラスチックの吸入による肺や全身への健康影響	城戸 貴志	呼吸器内科(第二内科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチに伴う間質性肺疾患における感染症リスク因子の探索	細萱 直希	臨床研究センター	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
IRF4特異的核酸医薬製剤を用いた新規1型糖尿病発症予防・進展阻止法の開発	錦戸 慎平	内分泌・代謝内科(第一内科)	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脂肪幹細胞での肛門機能低下の新規予防法開発と人工肛門括約筋による肛門機能再生研究	富永 哲郎	腫瘍外科(第一外科)	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
尿路癌におけるLATS-1/2の病理学的意義の解明と新たな治療戦略の構築	松尾 朋博	泌尿器科・腎移植外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代ハイブリット型全層角膜の作製と保存方法の開発	上松 聖典	眼科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
GPx4に着目したビスホスホネート製剤関連顎骨壊死に対する予防・治療法の開発	尾立 哲郎	冠補綴治療室	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
食塊形成の過程を可視化する食事介助モニタリングシステム	高橋 陽助	義歯補綴治療室(保存・補綴歯科)	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔外科手術後挿管患者に対する抗菌薬局所投与による術後肺炎発症予防	三浦 桂一郎	口腔顎顔面外科室(第一口腔外科)	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
身体的フレイルを有する慢性呼吸器疾患患者における新たな運動プログラムの開発	花田 匡利	リハビリテーション部	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
集中治療患者における人工呼吸器装着下での嚥下障害の評価法および治療法の開発	高畠 英昭	リハビリテーション部	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
原爆被爆者のクローン性造血と生活習慣病、悪性腫瘍発症との関連を解明する研究	佐藤 信也	血液内科(原研内科)	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔細菌由来ジペプチジルペプチダーゼによる歯周炎重症化についての生化学的探究	西俣 はるか	小児歯科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精神疾患との共生型社会実現に向けた「病気の見える化」への挑戦	大山 要	薬剤部	8,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎における骨細胞ギャップ結合を介した細胞間情報伝達機構の解明	坂本 英次郎	歯科保存治療室(保存・補綴歯科)	876,894	補委	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞癌分子標的薬治療の有害事象予測モデルを組み合わせた新規効果予測	佐々木 龍	消化器内科	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プロサイモシンα由来ペプチドによるシスプラチン誘発性腎障害の新規予防法開発	鳥越 健太	腎臓内科	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細菌性肺炎の重症化メカニズムの解明および重症化を抑制する方法の検証	賀来 敬仁	検査部	1,487,744	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳癌発癌機構におけるゲノム不安定性の53BP1を指標とした総合的解析	上木 望	地域病理診断支援センター	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
血中循環腫瘍DNAを用いた甲状腺乳頭癌の新たな治療戦略基盤の構築	田中 彩	腫瘍外科(第一外科)	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
低分子化合物による肝前駆細胞を用いた肝加齢性変化の改善、若返り治療	原 貴信	移植・消化器外科(第二外科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臍帯由来間葉系幹細胞誘導芽細胞を用いた革新的消化器手術合併症予防法の開発	小林 慎一郎	移植・消化器外科(第二外科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
マウス小腸移植モデルを用いた小腸移植後抗体関連型拒絶反応の発症機序と治療法の解明	松島 肇	移植・消化器外科 (第二外科)	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Ex vivo再生肺における生体内微小環境を再現した肺胞上皮構造の再構築	橋本 泰匡	腫瘍外科 (第一外科)	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌術後患者における術後呼吸筋機能障害に着目した新たなアプローチの検討	及川 真人	リハビリテーション部	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞が肝臓構成細胞へ与える影響からみるNASH治療標的の探索	福島 真典	消化器内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マクロファージにおける交感神経と副交感神経を介した抗炎症効果の相互作用の解明	牟田 久美子	腎臓内科 (第二内科)	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ADAMを介した全身性エリテマトーデスにおけるTh17細胞分化制御機構の解明	梅田 雅孝	リウマチ・膠原病内科 (第一内科)	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺非結核性抗酸菌症の新規治療法開発に向けた組織常在型リンパ球による予防効果の検証	岩永 直樹	呼吸器内科 (第二内科)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
植物性アルカロイドであるセファランチンを応用した義歯患者用機能的口腔保湿剤の開発	叶井 里歩	義歯補綴治療室 (保存・補綴歯科)	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
成育期の咀嚼・嚥下機能発達不全がオーラルフレイルを引き起こすメカニズムの解明	吉見 知子	矯正歯科 (歯科矯正学)	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
運動療法と栄養療法の相乗効果による重症大動脈弁狭窄症患者の予後改善への挑戦	矢野 雄大	リハビリテーション部	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
救急医療における深層学習を用いた腹部CT画像AI診断補助システムの開発	中尾 康彦	消化器内科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オーラルスキャナを応用したテーラーメイド電動歯ブラシの開発と有効性について	小関 優作	口腔管理センター	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫におけるDNA修復機構阻害薬がもたらすがん免疫賦活化作用の解明	谷口 寛和	呼吸器内科 (第二内科)	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎合併肺癌において薬剤性肺炎の発症を予測する新規高分解能CTスコアの確立	行徳 宏	呼吸器内科 (第二内科)	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
原発性線毛運動不全症診断における客観的・自動的評価法の確立	由良 博一	呼吸器内科 (第二内科)	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非小細胞肺癌におけるAXL-MBIP融合遺伝子の病的意義の解析と治療標的の探索	竹本 真之輔	呼吸器内科 (第二内科)	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗基底膜抗体型腎炎における自律神経刺激による腎保護効果の検討	阿部 伸一	呼吸器内科 (第二内科)	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
剥脱性口唇炎の病態の探索:唾液に関する検討	鋤塚 さやか	皮膚科・アレルギー科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
特発性多中心性キャッスルマン病のリンパ節領域数と病態との関連を明らかにする研究	住吉 玲美	臨床研究センター	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
サイトカインを用いた肺アスペルギルス症の病態解明と新規治療法の開発	伊藤 裕也	呼吸器内科 (第二内科)	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難治性放射線皮膚障害に対するIL-12製剤の臨床応用実現に向けて	西條 広人	形成外科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規自己組織化ナノデバイスを搭載した遺伝子活性化基質GAMの開発	原 昌士	顎口腔再生外科室 (第二口腔外科)	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自己非培養脂肪組織由来細胞移植によるインプラント周囲炎新規治療法開発基盤構築研究	張 暁旭	冠補綴治療室	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌における免疫チェックポイント分子の発現と臨床学的因子との関連	古川 浩平	口腔顎顔面外科室 (第一口腔外科)	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
唾液バイオマーカーを用いた術後睡眠障害の発症機序の解明および新規予防法の確立	本田 由 (尾崎 由)	麻酔・生体管理科	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
地域医療圏を反映する新しい外来経口抗菌薬使用量評価システムと耐性菌抑制効果	柿内 聡志	感染制御教育センター	2,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
隣癌EUS-FNA検体を用いたex vivo培養システム構築と新規薬剤感受性試験の確立	高橋 孝輔	総合患者支援部	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ラットCLiPを用いた肝小葉様構造の作製および移植の実施、構造並びに機能評価	哲翁 華子	移植・消化器外科 (第二外科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
歯周病および歯周病原細菌量と咀嚼機能の変化が糖尿病へ及ぼす影響:五島コホート研究	大平 真之	歯科保存治療室 (保存・補綴歯科)	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
炭酸アパタイトの骨置換制御機構解明による個別化骨補填材料創製のための基盤構築研究	張 暁旭	冠補綴治療室	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
特定健診の受診集団を対象とした電子的患者報告アウトカム(ePRO)の開発	矢野 浩史	臨床研究センター	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高齢肝再生不全に対するSenolysisの試み	右田 一成	移植・消化器外科 (第二外科)	1,000,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
悪性神経腫に対するmiRNAを使用した核酸医薬とその非侵襲的送達法の開発	中村 光流	脳神経外科	1,100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
金属アレルギーにおける新規Rabタンパク質の機能解明	野黒美 麻由子	義歯補綴治療室 (保存・補綴歯科)	1,100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
M1マクロファージを機軸としたMRONJの病態形成機構解明と治療法開発基盤構築研究	小堤 涼平	冠補綴治療室 (保存・補綴歯科)	1,100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
診療データと免疫学的指標の統合処理型人工知能によるirAE予測モデルの開発	橋詰 淳哉	安全管理部/薬剤部	1,100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
HTLV-1の自己抗体産生系やThサブセットに及ぼす影響	清水 俊匡	臨床研究センター	50,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
オルガノイド由来II型肺細胞とデザイナー臍帯MSCの共移植による革新的細胞治療の創出	土肥 良一郎	腫瘍外科	30,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築	小路永 聡美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
若年者ピロリ検診の実装化とピロリ胃炎進展メカニズムの解明	山口 直之	消化器内科	50,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
腫瘍循環器リハビリテーションのQOLに着目した効果の検証	佐藤 俊太郎	臨床研究センター	500,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
老化細胞の蓄積を起因とするループス腎炎の病態形成と治療標的分子の解明	井川 敬	リウマチ・膠原病内科 (第一内科)	50,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
アミノ酸固定化カラムと神経筋接合部に対する病原性自己抗体	吉村 俊祐	脳神経内科	100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
腫瘍循環器リハビリテーションのQOLに着目した効果の検証	大山 要	薬剤部	2,900,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
老化細胞の蓄積を起因とするループス腎炎の病態形成と治療標的分子の解明	嶺 豊春	薬剤部	470,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
アミノ酸固定化カラムと神経筋接合部に対する病原性自己抗体	冠地 信和	精神科神経科	470,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
自閉スペクトラム症児の深奥質感認識における経時的変化と個人因子との関係の解明	熊崎 博一	精神神経科学	3,000,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
精神障害者の多様な知覚クオリアに影響する個人因子の解明	熊崎 博一	精神神経科学	4,600,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
発達障害学生のオンライン授業における複数ロボットによる支援システムの開発	熊崎 博一	精神神経科学	7,700,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
プレボテラ菌による肺炎増悪の機序の解明及び新規治療法の開発	迎 寛	呼吸器内科 (第二内科)	616,525	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
HTLV-1の分子系統別疾患感受性の解明と層別化コホート研究の構築	前田 隆浩	総合診療学	2,400,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
多疾患併存は高齢者の加齢性身体機能低下とどのような疫学的関連性があるのか	山梨 啓友	総合診療学	2,600,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
組織マクロファージの動的恒常性維持機能を標的軸としたデザイナー細胞医薬の開発	住田 吉慶	先進口腔医療開発学	4,200,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
プレボテラ菌による肺炎増悪の機序の解明及び新規治療法の開発	迎 寛	呼吸器内科 (第二内科)	5,300,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
マクロファージ階層構造と組織配向性制御によるインプラント周囲炎の病態形成機構解明	澤瀬 隆	口腔インプラント学 (歯科補綴学第一)	3,300,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
自浄機能と生理活性物質徐放ドラッグデリバリー機能をもつ多機能軟質リライン材の開発	村田 比呂司	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	4,000,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
自己免疫疾患における所属リンパ節の免疫機能是正を標的軸としたデザイナー細胞の開発	井 隆司	顎口腔再生外科学 (口腔外科学第二)	3,600,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
光合成の触媒系を象牙質接着強化に応用し歯根を保存するバイオミメティクス研究	平 曜輔	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	32,625	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
生体外MRIで作成した高分解能定量的磁化率マップによる動脈硬化性プラーク成分解析	石丸 英樹	放射線診断治療学	206,373	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
括約筋再生のための機能的筋細胞シートの開発	金高 賢悟	移植・消化器外科 (第二外科)	627,014	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
天然活性物質含有ナノバブル水を利用した無髄歯に対する革新的象牙質改質剤の開発	山田 志津香	歯周歯内治療学	742,901	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
USを用いた高精度口腔癌リンパ節転移診断法の確立	榮田 智	歯科放射線学	1,864,302	補 委	独立行政法人日本 学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低濃度フッ化物を用いた放射性性蝕予防に関する多施設共同第Ⅲ相試験	五月女 さき子	口腔保健学 (予防歯科)	31,760	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
医療・介護連結ビッグデータによるポリファーマシーと 介護リスクの関連分析	永田 康浩	地域医療学	1,353,883	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
びまん性肝腫瘍に対する症状緩和効果の向上を目指 した肝機能温存放射線治療の開発	東家 亮	放射線診断治療学	1,133,679	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
関節炎が起こる前段階で関節リウマチの発症を人工 知能で予測する多角的研究	玉井 慎美	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	673,189	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
早期診断が困難な腎移植後抗体関連型拒絶反応に 対する革新的検査法の創出	今村 亮一	泌尿器科	2,074,754	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
重症二次性三尖弁逆流に対するスパイラル・サスペ ンション法の有効性に関する臨床研究	三浦 崇	心臓血管外科学	1,252,553	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
オピオイド受容体の細胞内局在と活性変化に基づく最 適なオピオイド順次投与法の確立	村田 寛明	麻酔科	415,675	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
顕微鏡手術へのロボット導入の為に高解像度3Dモニ ター下微細手術の問題解明	松尾 孝之	脳神経外科	1,436,060	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
がん脳転移にペリサイトが及ぼす影響をin vitro血液脳 関門モデルで解明する	氏福 健太	脳神経外科	1,780,159	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
陣痛発来と関連するRNAプロファイルの同定とその臨 床的意義に関する研究	三浦 清徳	産科婦人科	2,164,880	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
産科疾患における妊娠産物由来間葉系幹細胞・エクソ ソームの臨床的意義に関する研究	三浦 生子	産科婦人科	2,933,781	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
歯周病発症における新規小胞輸送因子の分子機構の 解析	近藤 好夫	小児歯科学	923,175	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
高齢ドナー顎骨由来MSCを用いたSASP抑制による高 度顎堤吸収治療法の開発研究	原田 佳枝	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	543,463	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
リソソームに着目した口腔癌細胞のマルチモーダルイ メージング解析	角 忠輝	総合歯科臨床教育学	572,837	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
幼小児期の味覚を標的とした「トラッキング」に基づく 「生活習慣病」予防対策の実用化	藤山 理恵	総合歯科臨床教育学	2,419,324	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
骨髄異形成症候群におけるKMT2Dの役割の解明とそ れに基づいた新規治療法の開発	安東 恒史	原研内科	303,054	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
Mixed Realityと人工知能で実現する関節リウマチ遠隔 医療システムの構築	川尻 真也	地域医療学	886,046	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
特発性多中心性キャッスルマン病の病型をクラスタリ ングする分子基盤研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	1,000,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
新規モデルマウスを用いたアスペルギローマ排除機構 の解明および薬物動態の解析	田代 将人	感染症学	100,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
1型糖尿病のエフェクター機能を反映した抗原特異的T 細胞マーカーの開発	赤澤 諭	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	2,212,531	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
低分子化合物によるリプログラミング技術を用いた自 己非β細胞からの新規β細胞誘導	足立 智彦	移植・消化器外科 (第二外科)	1,702,760	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
化学的誘導肝前駆細胞によるin vivoにおける胆管再 構築	曾山 明彦	先端技術展開外科学講 座	2,065,391	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
加齢黄斑変性の予後改善を目指した治療抵抗例の検 討とGLP1刺激による新規治療開発	大石 明生	眼科	1,003,484	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
ケロイド発生に対するfibroblast分化の関与	檜山 和也	形成再建外科学	2,913,751	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
薬剤関連顎骨壊死手術における適切な骨切除範囲決 定方法:多機関共同前向き研究	六反田 賢	口腔腫瘍治療学 (口腔外科学第一)	624,122	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
MRIと深層学習を用いた口腔癌リンパ節転移予測法の 確立	角 美佐	歯科放射線学	1,356,907	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
低酸素細胞の放射線抵抗性におけるcPLA2の働き	片山 郁夫	歯科放射線学	2,701,949	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
気道・肺検体に蓄積されたマイクロプラスチックの呼吸 器疾患への影響に関する研究	溝口 聡	腫瘍外科学 (第一外科)	1,515,170	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
Colitic cancerの発症予測を可能とする腸管幹細胞の ゲノム不安定性解析	赤澤 祐子	組織細胞生物学	1,400,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
新規症候性疾患ROBO1異常症における臨床的、分子 遺伝学的研究	伊達木 澄人	小児科学	3,200,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
アスペルギルスと細菌の微生物間インタラクション解析 による重複感染病態の解明と制御	泉川 公一	感染制御教育センター	1,407,150	補 委	独立行政法人日本 学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
悪性脳腫瘍に対するマイクロバブルと集束超音波によるmRNA医薬非侵襲的送達法の開発	日宇 健	脳神経外科	1,831,886	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代型バイオセラミックスを用いた不完全垂直歯根破折に対する新規治療法の開発	松裏 貴史	歯周歯内治療学	980,242	補委	独立行政法人日本学術振興会
ステロイド含漱剤の口腔粘膜炎症予防に関する多機関共同第Ⅲ相ランダム化比較試験	五月女 さき子	口腔保健学（予防歯科）	1,910,620	補委	独立行政法人日本学術振興会
オピオイド受容体・ノセプチン受容体を標的とした新しい周術期鎮痛法・鎮痛薬の開発	倉田 眞治	歯科麻酔学	2,071,240	補委	独立行政法人日本学術振興会
歯根吸収発症における細胞小器官分解システム関連蛋白の役割	佛坂 斉社	矯正歯科（歯科矯正学）	2,520,040	補委	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン病モデルマウスを用いた咀嚼・嚥下障害発症メカニズムの解明と治療法開発	吉田 教明	矯正歯科（歯科矯正学）	2,073,916	補委	独立行政法人日本学術振興会
仮想曝露とバイオフィードバックによる歯科恐怖症治療システムの開発	田上 直美	小児歯科学	1,104,774	補委	独立行政法人日本学術振興会
GPx4に着目したビスホスホネート製剤関連顎骨壊死に対する予防・治療法の開発	尾立 哲郎	口腔インプラント学（歯科補綴学第一）	1,627,398	補委	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞由来巨核球を骨誘導のデザイナー細胞として応用した新しい骨再生治療開発	住田 吉慶	先進口腔医療開発学	404,355	補委	独立行政法人日本学術振興会
様々な臓器再生に応用可能な人工臓器基本骨格作製と大量生産・品質向上の基礎的研究	松本 桂太郎	腫瘍外科学（第一外科）	1,600,703	補委	独立行政法人日本学術振興会
発達障害者の自己意思決定を支援するマルチロボット連携システムの開発	熊崎 博一	精神神経科学	3,250,610	補委	独立行政法人日本学術振興会
イモリの驚異的飢餓耐性と組織再生を支えるオートファジーの制御機構の解明	川端 剛	幹細胞生物学	1,885,651	補委	独立行政法人日本学術振興会
交代勤務看護師を対象とした認知行動療法を用いた睡眠衛生教育プログラムの確立	長浦 由紀	総合診療学	22,658	補委	独立行政法人日本学術振興会
銀ナノ粒子担持加工技術を応用したアクリル系軟質リライン材への抗菌効果の付与	江越 貴文	歯科補綴学（歯科補綴学第二）	768,692	補委	独立行政法人日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の治療予後に寄与する骨膜反応の放射線学的および病理組織学的解析	林田 咲	口腔腫瘍治療学	472,244	補委	独立行政法人日本学術振興会
マウスモデルを用いたカンジダ属の薬剤耐性機序の解明	平山 達朗	薬物治療学	1,784,396	補委	独立行政法人日本学術振興会
アセチルクエン酸トリブチルを用いた生体親和性の高い光重合型軟質リライン材の開発	森 智康	歯科補綴学（歯科補綴学第二）	1,750,929	補委	独立行政法人日本学術振興会
MRSA治療最適化を目指した、流行クローン劇的変化の要因とその病原性の解明	加勢田 富士子	病態解析・診断学（臨床検査医学）	1,827,320	補委	独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析を用いた肺動脈性肺高血圧症のバイオマーカの網羅的探索	江口 正倫	循環器内科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
M1マクロファージを機軸としたMRONJの病態形成機構解明と治療法開発基盤構築研究	小堤 涼平	口腔インプラント学（歯科補綴学第一）	1,198,983	補委	独立行政法人日本学術振興会
発汗を制御する合成化合物の開発を通してヒトの環境適応能力を高める探索的研究	室田 浩之	皮膚科	2,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
線維シグネチャーに基づくNAFLD肝発癌予測のバイオマーカーの開発	宮明 寿光	消化器内科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HSP47を創薬標的とした新規肺線維症治療薬開発と肺線維化機序の解明	坂本 憲穂	呼吸器内科（第二内科）	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
全身性強皮症における新規病態関連因子の同定：免疫複合体に着目した検討	岩本 直樹	リウマチ・膠原病内科学（第一内科）	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Candida aurisの薬剤耐性機序の解明とその克服	平山 達朗	薬物治療学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
短腸症候群治療を目的とした細胞シートによる新規小腸延長術式の開発	金高 賢悟	移植・消化器外科（第二外科）	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工知能と仮想空間再現技術を用いた脳外科手術技能評価モデルの構築	松尾 孝之	脳神経外科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規画像検査であるHR-pQCTを用いた骨粗鬆症の発症進行メカニズムの横断・縦断的解析	千葉 恒	整形外科	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎移植後腎機能低下に影響を及ぼす腎尿管間質線維化を抑制する革新的手法の確立	今村 亮一	泌尿器科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎児機能と関連するRNAプロファイルの同定とその臨床的意義に関する研究	三浦 清徳	産科婦人科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
癒着胎盤と関連するRNAプロファイルの同定とその臨床応用に関する研究	三浦 生子	産科婦人科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
マクロファージを標的とした、放射線照射後声帯炎の予防に関する基礎的研究	熊井 良彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科学口	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
上皮細胞のピロトーシス様細胞死抑制による歯周炎発症予防法の開発	尾崎 幸生	歯周歯内治療学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
インフラマソームプライミングを指標とした歯周病と全身疾患の分子生物学的関連解析	吉村 篤利	歯周歯内治療学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗菌性と薬物送達性を有するアジュバント含有次世代根管貼薬剤の歯根破折抵抗性の検討	山田 志津香	歯周歯内治療学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規Rabタンパク質機能に着目した歯周疾患発症と病態形成の解析	近藤 好夫	小児歯科学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
GGOHを利用したインプラント周囲における骨質改善療法の開発研究	右藤 友督	口腔インプラント学（歯科補綴学第一）	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
暖色を呈する銀ナノ微粒子を応用したアクリル系軟質リライン材への抗菌効果の付与	江越 貴文	歯科補綴学（歯科補綴学第二）	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔癌細胞の酸性環境に関与するリソソーム膜の動態のイメージング解析	角 忠輝	総合歯科臨床教育学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
MRIを用いた高精度口腔癌リンパ節転移予測法の確立	柴田 智	歯科放射線学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
幼小児期の味覚をターゲットとしたNCDs予防プログラムの構築	藤山 理恵	総合歯科臨床教育学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ゲノムとエピゲノムが中耳真珠腫の骨破壊性進展へ及ぼす影響の解明	佐藤 智生	耳鼻咽喉・頭頸部外科学口	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
トポロジカルデータ解析を用いた神経精神ループスの診断精度向上のための臨床研究	浦島 佳代子	精神神経科学	2,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
食道機能障害の早期発見・AI教育プログラムの導入がもたらす可能性	田淵 真惟子	組織細胞生物学（第三解剖）	2,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
MΦのリプログラミングを機軸としたMRONJの病態形成機構解明と治療法開発基盤構築研究	小堤 涼平	口腔インプラント学（歯科補綴学第一）	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
異所性腸管細胞シートによる生体内グラフトの創製	宮本 大輔	移植・消化器外科（第二外科）	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
AIによる矯正学的歯の移動予測・可視化システムの構築-症例データベースの応用-	小牧 博也	矯正歯科（歯科矯正学）	2,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
咬筋・下顎骨間のmyokineによるcross-talkと下顎形態との関わり	山田 朋弘	口腔顎顔面外科学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹腔内カンジダ症における病態解析と新たな治療戦略の開発	芦澤 信之	呼吸器内科（第二内科）	2,911,183	補委	独立行政法人日本学術振興会
歯周病と動脈硬化-微細炎症合併日本人型経度肥満モデルでの検討	岩下 未咲	歯周歯内治療学	2,076,221	補委	独立行政法人日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死の原因薬剤休薬は骨代謝機構を回復させ治療成績に寄与するか？	大森 景介	口腔腫瘍治療学（口腔外科学第一）	2,072,218	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔細菌由来ジベプチルペプチダーゼによる歯周炎重症化についての生化学的探究	西俣 はるか	小児歯科学	2,125,364	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺臓オルガノイド新規培養系の確立によるin vitroヒト肺線維症モデル創出	土肥 良一郎	腫瘍外科（第一外科）	2,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ケミカルダイレクトリプログラミングによる肺臓上皮細胞誘導法の開発	土肥 良一郎	腫瘍外科学（第一外科）	3,238,940	補委	独立行政法人日本学術振興会
マクロファージにおける交感神経と副交感神経を介した抗炎症効果の相互作用の解明	牟田 久美子	腎臓内科（第二内科）	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臍帯由来間葉系幹細胞からの骨芽細胞分化におけるPrrx1の影響	江頭 寿洋	先進口腔医療開発学	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
羊膜チューブキャッピングによる外傷性神経腫の制御	岩尾 敦彦	形成再建外科学	2,047,106	補委	独立行政法人日本学術振興会
オプトジェネティクスを用いた腎交感神経刺激による腎保護メカニズムの解明	梅根 隆介	内臓機能生理学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
巨核球の分化制御が織りなす骨再生・骨疾患治療の開発	長野 敏樹	先進口腔医療開発学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
エクソソーム内microRNAによる筋機能発達不全とサルコペニアの診断法の開発	藤田 優子	小児歯科学	1,332	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAによる筋および骨量調節因子の探索と機能解析	藤田 優子	小児歯科学	779,870	補委	独立行政法人日本学術振興会
ひきこもりの生物心理社会的病態理解に基づく多元的な支援法開発	熊崎 博一	精神神経科学	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
認知バイアスから自閉症者の行動を探る：自閉症者の診療場面における説明再考に向けて	熊崎 博一	精神神経科学	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新たな骨再生医療創成に向けた間葉系幹細胞の再定義とエネルギーセンシング機構の解明	熊崎 博一	精神神経科学	160,438	補委	独立行政法人日本学術振興会
下顎無歯顎に応用する軟質リライン材の臨床効果-多施設ランダム化比較試験-	村田 比呂司	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	108,720	補委	独立行政法人日本学術振興会
IgG4関連涙腺・唾液腺炎の診断基準への超音波診断導入のための多施設共同研究	高木 幸則	歯科放射線学	128	補委	独立行政法人日本学術振興会
口腔常時菌による血流感染の発症機構に基づいた医科歯科連携による高度管理方法の構築	五月女 さき子	口腔保健学 (予防歯科)	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎移植患者におけるSGLT2阻害薬の腎保護効果	今村 亮一	泌尿器科	150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
尿中蛋白質断片の網羅的解析による日和見感染症の新規診断法の開発	平山 達朗	薬物治療学	22,404	補委	独立行政法人日本学術振興会
HMGB1ペプチドを用いた末梢血間葉系幹細胞動員による腎線維化の抑制	今村 亮一	泌尿器科	150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者の機能歯数・オーラルフレイルと唾液中細菌の関連：天草コホート研究	五月女 さき子	口腔保健学 (予防歯科)	150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抜歯後MRONJ発症機序の解明および予防策の確立	五月女 さき子	口腔保健学 (予防歯科)	150,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
シリコン微細粒子経口投与によるラット異系腎移植モデルにおける免疫応答への効果	今村 亮一	泌尿器科	200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎移植後拒絶反応の診断および治療効果予測のための革新的新規バイオマーカーの創出	今村 亮一	泌尿器科	200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳可塑性変化に基づく口腔リハビリテーション効果の解析	村田 比呂司	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	65,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築	熊井 良彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科学口	28,660	補委	独立行政法人日本学術振興会
難聴児見逃しゼロを目指した小児聴覚スクリーニングシステムの構築	佐藤 智生	耳鼻咽喉・頭頸部外科学口	47,500	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイノリティストレスがHIV陽性者の治療意欲抑制に及ぼす影響と支援策の案出	長浦 由紀	総合診療学	147,020	補委	独立行政法人日本学術振興会
包括的疾患インタラクトームとモデルマウスによる自己炎症疾患の多様性と周期性の解明	川上 純	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳・脊髄液以外の検体からの微量異常型プリオン蛋白検出法の開発	佐藤 克也	保健学専攻 作業療法学分野	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オルガノイド由来Ⅱ型肺細胞とデザイナー臍帯MSCの共移植による革新的細胞治療の創出	松本 桂太郎	腫瘍外科学 (第一外科)	32,818	補委	独立行政法人日本学術振興会
孤独感－自殺プロセスに寄与する睡眠問題の特定と認知行動療法による孤独予防効果	長浦 由紀	総合診療学	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
有機無機ハイブリッド型抗菌剤を応用した抗菌性義歯粘着剤の開発	村田 比呂司	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
好中球と関連miRNA発現制御による創傷治癒遅延機構の解明と革新的治療法の開発	坂本 憲穂	呼吸器内科 (第二内科)	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病治療を実現する細胞外マトリックスファイバー複合多層モノリスニードルの開発	足立 智彦	移植・消化器外科 (第二外科)	200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
内省支援アバター空間の開発と発達障害者の社会性発達支援への応用	熊崎 博一	精神神経科学	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
エモショナルAI：価値を持つAIと人の感情的インタラクションの多面的理解	熊崎 博一	精神神経科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺癌転移における核膜タンパク質の新たな機能を解明する	熊崎 博一	精神神経科学	50,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺移植後の在宅呼吸機能モニタリング・解析と予測モデル開発：多施設共同研究	松本 桂太郎	腫瘍外科学 (第一外科)	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
個別最適化した超早期認知症予防介入プログラムの開発とシステム構築	佐藤 克也	保健科学分野	50,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
オルガノイド由来Ⅱ型肺細胞とデザイナー臍帯MSCの共移植による革新的細胞治療の創出	土肥 良一郎	腫瘍外科 (第一外科)	80,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
原発性局所多汗症の心理的症状の改善を目的としたセルフマネジメント法の開発と検証	室田 浩之	皮膚科	30,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アノキス抑制と自己組織化による高機能「bioartificial living bone graft」の開発	住田 吉慶	先進口腔医療開発学	200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
高機能細胞(E-MNC)由来エクソソームによる放射線性顎骨壊死の新規治療法の開発	住田 吉慶	先進口腔医療開発学	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢要介護義歯安定剤使用者に向けた口腔ケア法の開発研究	原田 佳枝	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	350,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
加齢による顎骨MSCの品質変化と細胞老化関連分泌の抑制戦略	原田 佳枝	歯科補綴学 (歯科補綴学第二)	650,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
日米間における特発性多中心性キャスルマン病の国際病理基準の確立と患者実態調査	川上 純	リウマチ・膠原病内科学 (第一内科)	100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	松尾 朋博	泌尿器科・腎移植外科	200,000	補委	厚生労働省
脳脊髄液減少症の疫学研究及び客観的診断法に資する研究	里 龍晴	小児科	100,000	補委	厚生労働省
食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究(カネミ油症に関する研究)	井上 大輔	眼科	700,000	補委	厚生労働省
発汗異常を伴う稀少難治療性疾患の治療指針作成、疫学調査の研究	室田 浩之	皮膚病態学	10,000,000	補委	厚生労働省
キャスルマン病、TAFRO症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	7,999,000	補委	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究	江口 晋	移植・消化器外科	20,000,000	補委	厚生労働省
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究	熊崎 博一	精神神経科学	1,170,000	補委	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究	江口 晋	移植・消化器外科	100,000	補委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	1,700,000	補委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	600,000	補委	厚生労働省
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	200,000	補委	厚生労働省
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	佐藤 克也	保健学専攻 作業療法学分野	200,000	補委	厚生労働省
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	室田 浩之	皮膚病態学	500,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	佐藤 克也	保健学専攻 作業療法学分野	800,000	補委	厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	伊達木 澄人	小児科学	250,000	補委	厚生労働省
臓器・組織移植医療における医療者の負担軽減、環境改善に資する研究	江口 晋	移植・消化器外科	1,000,000	補委	厚生労働省
HTLV-1キャリア妊産婦の支援体制の構築に関する研究	三浦 清徳	産科婦人科学	200,000	補委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模多施設研究	尾崎 誠	整形外科	100,000	補委	厚生労働省
社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に資する研究	三浦 清徳	産科婦人科学	200,000	補委	厚生労働省
食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	室田 浩之	皮膚病態学	3,710,000	補委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	佐藤 克也	保健学専攻 作業療法学分野	5,000,000	補委	厚生労働省
非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染者に合併する悪性腫瘍の制御を目指した研究	江口 晋	移植・消化器外科	300,000	補委	厚生労働省
最新の知見を踏まえた医療機関における院内感染対策の質向上のための研究	泉川 公一	臨床感染症	150,000	補委	厚生労働省
最新の知見を踏まえた医療機関における院内感染対策の質向上のための研究	柳原 克紀	臨床検査医学	150,000	補委	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	宮崎 泰司	原研内科	500,000	補委	厚生労働省
低分子化合物による自己肝前駆細胞を用いた革新的肝硬変治療	江口 晋	移植・消化器外科	30,450,000	補委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
低分子化合物誘導肝前駆細胞(CLiP)による希少難治性肝・胆道疾患に対する画期的再生医療の探索研究	足立 智彦	移植・消化器外科	22,100,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立:薬事承認を目的とした第II相医師主導治験	加藤 丈晴	血液内科	1,500,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノゲン活性化因子(tPA)眼局所治療に関する研究開発	福島 千鶴	臨床研究センター	1,200,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
RBA実装事例の蓄積と臨床研究中核病院以外のAROにおいて効果的なRBA実装を可能とするためのツール整備	細萱 直希	臨床研究センター	1,650,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
移植免疫寛容を誘導する再生医療等製品「誘導型抑制性T細胞」の医師主導治験と承認申請に向けた取り組み	江口 晋	移植・消化器外科	1,000,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
網膜色素変性の病因遺伝子変異とその臨床像に関するエビデンス構築	大石 明生	眼科	1,000,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
統合レジストリを活用したキャッスルマン病・TAFRO症候群における精密医療基盤の構築を目指す実用化研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科	10,840,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ステロイドマウスウォッシュによる乳癌化学療法誘因性の口腔粘膜炎予防を検討する第III相ランダム化比較試験	久芳 さやか	移植・消化器外科	10,394,100	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝移植における提供臓器使用率と治療成績向上を目的とした最適な低温酸素化灌流臓器保存技術に関する研究	曾山 明彦	移植・消化器外科	7,999,975	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立	古賀 智裕	リウマチ・膠原病内科	500,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
アグレッシブ成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究	糸永 英弘	細胞療法部	200,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	長谷川 寛雄	検査部	500,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為化比較試験研究	芦澤 和人	がん診療センター	200,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ(Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	吉浦 孝一郎	原爆後障害医療研究所	9,000,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
たんぱく質必要量の評価のための基礎データ構築研究	佐藤 俊太郎	臨床研究センター	150,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ミトコンドリア分子連関を介した重点感染症の治療薬開発	西野 友哉	腎臓内科	2,000,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明	川上 純	リウマチ・膠原病内科	500,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高齢者急性骨髄性白血病の適応症例に対する強力化学療法を用いた第II相臨床試験:JALSG-GML219、非適応症例に対するベネトクラクス+アザシチジンを用いた第II相臨床試験:JALSG-GML225	宮崎 泰司	原爆後障害医療研究所	300,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新規脳梗塞血栓溶解薬の国内導入を目指した研究開発	辻野 彰	脳神経内科	160,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
先天性サイトメガロウイルス感染児の遅発性難聴を対象としたバルガンシクロビル塩酸塩ドライシロップの有効性および安全性を評価する多施設共同プラセボ対照ランダム化並行群間比較試験(VGCV-3)	森内 浩幸	小児科	300,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
サルコペニア患者における栄養療法確立のための研究	佐藤 俊太郎	臨床研究センター	700,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
甲殻類抗体様蛋白質Dscamを用いたコレラ、ジフテリ の迅速診断法の開発	高橋 健介	高度救命救急センター	200,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臓器移植データベースの悉皆性の担保と臨床応用の ためのシステム開発研究	曾山 明彦	高度救命救急センター	40,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
プリオン病国際医師主導治験獲得のためのプリオン病 早期診断基準の作成と非侵襲性診断法の開発	佐藤 克也	保健科学分野	13,000,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	三浦 清徳	産科婦人科学	20,553,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	三浦 清徳	産科婦人科学	33,150,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多発性筋炎/皮膚筋炎に伴う進行性フェノタイプを示す 間質性肺疾患に対する活性型IL-18特異的中和抗体 の開発研究	川上 純	リウマチ・膠原病内科学	81,900,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1水平感染の動向と検査法・検査体制の整備	長谷川 寛雄	臨床検査科	650,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ナショナルセンター・バイオバンクネットワークを基盤と する疾患別情報統合データベースを活用した産学官 連携による創薬開発研究	佐藤 克也	保健科学分野	8,000,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
インターフェロンフリー治療がC型肝炎患者の予後を含 めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	宮明 寿光	消化器内科学	1,040,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
移植医療への応用を想定した動物由来臓器の品質・有 効性・安全性評価法に関する研究開発	曾山 明彦	先端技術展開外科学	650,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
侵襲性真菌感染症の迅速診断法と新規治療法の研究 開発	平山 達朗	薬物治療学	3,900,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
経胎盤感染予防に資する次世代抗HTLV-1抗体医薬製 剤開発研究	三浦 清徳	産科婦人科学	1,300,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再生医療の普及を支援する再生医療ナショナルコン ソーシアムの充実	江口 晋	移植・消化器外科学	3,835,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非結核性抗酸菌症の院内感染制御法の確立	柳原 克紀	病態解析・診断学	975,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肝硬変患者の重症度別のQOLと長期経過、予後及び その改善に関する研究	赤澤 祐子	組織細胞生物学	1,040,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ART早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に 関する研究	泉川 公一	臨床感染症学	2,340,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
性分化疾患・性成熟疾患の治療成績向上に向けたエ ビデンス創出	伊達木 澄人	小児科学	1,040,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
PDX治療モデルと継時的臨床検体の統合的マルチオ ミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化 と難治性クローン克服に向けた治療戦略の構築に 関する研究	宮崎 泰司	血液内科学研究分野	1,040,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性がん(白血病等)の全ゲノム配列データおよび 臨床情報等の収集と解析に基づく創薬等のイノベー ションの創出をめざした研究	宮崎 泰司	血液内科学研究分野	130,000	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用 した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究(J- DREAMS)	堀江 一郎	第一内科	300,000	補 委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入終了後の追跡研究J-DOIT3(追跡)	前村 浩二	循環器内科	153,846	補 委	公益財団法人 日本糖尿病財団
切除不能肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法、外科的切除を用いた集学的治療の安全性、有効性を検討する多施設共同第Ⅱ相臨床研究付随研究:治療効果および有害事象予測のバイオマーカーの探索	江口 晋	移植・消化器外科学	38,460	補 委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
70歳以上のEpidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの至適投与量に関する多施設共同研究(研究略名: MONEY、研究番号: CSPOR-LC09)	竹本 真之輔	呼吸器内科	84,616	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するベムプロリズマブの至適投与量に関する試験	竹本 真之輔	呼吸器内科	42,308	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
洞不全症候群・心房細動の関連遺伝子単離と機能解析:J-PRES3	前村 浩二	循環器内科学	38,460	補 委	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
【MS】 発達障害・うつ病患者実証実験研究	熊崎 博一	精神神経科学	84,616	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機関(JST)
【CREST】 マルチタスクAIによる5歳児協調健診における大規模実験と実稼働	熊崎 博一	精神神経科学	42,308	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機関(JST)
【未来社会創造】 発達障害児を対象とした社会情動能力の数理的発達の検証	熊崎 博一	精神神経科学	38,460	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機関(JST)
【共創・順天堂】 災害など危機的状況でもヒト・モノ・ココロがつながる健康医療共創拠点	熊崎 博一	精神神経科学	84,616	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機関(JST)
【RISTEX】 離島の発達障害児医療におけるアバターロボットの活用支援体制の構築	永田 康浩	地域医療学	42,308	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機関(JST)
周産期医療体制の維持に必要な医師育成・確保事業	三浦 清徳	移植・消化器外科学	38,460	補 委	佐賀県
歯周疾患検診の実施及び評価と佐世保市の歯・口腔の健康づくりに関する研究	川下 由美子 五月女 さき子	口腔外科学	42,308	補 委	佐世保市
障がい児のう蝕・歯周疾患等の歯科健診及びその評価と、障がい児のう蝕・歯周疾患等の予防に関する研究	田上 直美	発達育成歯科学	38,460	補 委	佐世保市
動脈硬化を中心とした生活習慣病関連因子の調査・研究	林田 直美	健康社会統計学	84,616	補 委	佐々町
AMED)医療技術実用化総合促進事業	山本 弘史	臨床研究センター	163,733,973	補 委	(AMED)国立研究開発法人日本医療研究開発機構
厚労)臨床研究総合促進:研修PG(委員研修)	山本 弘史	臨床研究センター	15,131,000	補 委	厚生労働省
厚労)感染症臨床研究体制構築事業	泉川 公一	総合感染症科	20,000,000	補 委	厚生労働省
じん肺健康診断とじん肺管理区分決定の適切な実施に関する研究	芦澤 和人	臨床腫瘍学	11,000,000	補 委	厚生労働省
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における神経障害に対するGB-0998の有効性、安全性を検討する多施設共同オープン試験	岩本 直樹	リウマチ・膠原病内科	1,023,078	補 委	一般社団法人 日本血液製剤機構
切除不能局所進行/切除可能境界腺癌患者を対象としたS-1併用化学放射線療法+ニボルマブのランダム化比較第Ⅲ相試験	本田 琢也	消化器内科	500,000	補 委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
インフルエンザに対するT-705(ファビピラビル)注射剤のオセルタミビル併用下における有効性と安全性を探索するための第Ⅱ相医師主導治験	泉川 公一	総合感染症科	300,000	補 委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
		合計	860,540,824		

計 339件

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
-------	-------	------	----	----------

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、

高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Iwanaga N, Hosogaya N, Takazono T, et al	第二内科	Efficacy and Safety of Intravenous-to-Oral Lascufloxacin Switch Therapy in Community-Onset Pneumonia: A Single-Arm, Open-Label Clinical Trial.	Cureus. 2025 Mar 11;17(3):e80404. (オンライン)	Original Article
2	Setoguchi D, Iwanaga N, Ito Y, et al	第二内科	Case report and literature review of refractory fungemia caused by Candidavulturna.	Heliyon. 2024 May 19;10(10):e31464. (オンライン)	Case Report
3	Takazono T, Fujita S, Komeda T, et al	臨床感染症学	Real-World Effectiveness of Ensitrelvir in Reducing Severe Outcomes in Outpatients at High Risk for COVID-19.	Infect Dis Ther. 2024 Aug;13(8):1821-1833.	Original Article
4	Iwanaga N, Ota A, Ashizawa H, et al	第二内科	Clarithromycin Modulates Neutrophilic Inflammation Induced by Prevotella intermedia in Human Airway Epithelial Cells.	Antibiotics (Basel). 2024 Sep 23;13(9):909. (オンライン)	Original Article
5	Takazono T, Fujita S, Komeda T, et al	臨床感染症学	Letter to the Editor regarding Response to "Letter to Editor: "Real-World Effectiveness of Ensitrelvir in Reducing Severe Outcomes in Outpatients at High Risk for COVID-19".	Infect Dis Ther. 2024 Nov;13(11):2463-2467.	Letter
6	Takeda K, Takazono T, Mukae H	第二内科	Drug-drug interactions in the management of non-tuberculous mycobacterial infections.	Front Microbiol. 2024 Sep 5;15:1468383. (オンライン)	Original Article
7	Hirayama T, Miyazaki T, Tanaka R, et al	感染症内科学	TAC1b mutation in Candida auris decreases manogepix susceptibility owing to increased CDR1 expression.	Antimicrob Agents Chemother. 2025 Feb 13;69(2):e0150824.	Original Article
8	Setoguchi D, Iwanaga N, Ito Y, et al	第二内科	Neglected Pulmonary Infection Caused by Exophiala dermatitidis Misidentified as Rhodotorula spp.	Mycoses. 2024 Oct;67(10):e13804.	Case Report
9	Obase Y, Fukahori S, Iriki J, et al	呼吸器内科	Obstructive Pulmonary Disease, Asthma and Chronic Obstructive Pulmonary Disease Overlap, and Cough Variant Asthma: A Retrospective Observational Study.	Intern Med. 2025 Feb 8.	Original Article
10	Takazono T, Hosogaya N, Ideguchi R, et al	臨床感染症学	Emission Tomography/Computed Tomography (FDG-PET/CT) Imaging for Evaluating Treatment Efficacy in Mycobacterium avium Complex Pulmonary Disease.	Cureus. 2025 Mar 1;17(3):e79891. (オンライン)	Original Article
11	Takazono T, Ito G, Hosogaya N, et al	臨床感染症学	Comparison of the Effectiveness of Baloxavir and Oseltamivir in Outpatients With Influenza B.	Influenza Other Respir Viruses. 2024 Sep;18(9):e70002.	Original Article
12	Torigoe K, Yoshidome A, Otsuka E, et al	腎臓内科	A Case of Peritoneal Dialysis-Related Peritonitis Due to Moraxella osloensis.	Cureus. 2024 Nov 23;16(11):e74294. (オンライン)	Case Report
13	Torigoe K, Yoshidome A, Ashizawa K, et al	腎臓内科	A Case of Peritoneal Dialysis-Related Peritonitis Caused by Kocuria rhizophila.	Cureus. 2024 Nov 30;16(11):e74856. (オンライン)	Case Report

14	Kitamura M, Yamashita H, Kuroki R, et al	血液浄化療法部	Iron Deficiency in Newly Referred Patients With Chronic Renal Failure.	Cureus. 2024 May 25;16(5):e61076. (オンライン)	Original Article
15	Iwata M, Uramatsu T, Sakamoto R, et al	第二内科	Delayed rectum perforation by a peritoneal dialysis catheter in a peritoneal dialysis patient: a case report and literature review.	CEN Case Rep. 2025 Feb 13.	Original Article
16	Takaki R, Kohatsu K, Kuwano K, et al	呼吸器内科	Hyperkalemia presentation at a clinic during the cold season.	CEN Case Rep. 2025 Feb;14(1):34–38.	Case Report
17	Torigoe K, Torigoe M, Oka S, et al	腎臓内科	Aspartame, as an artificial sweetener, does not affect renal function and antioxidative states in mice.	BMC Res Notes. 2024 Jun 5;17(1):155. (オンライン)	Original Article
18	Tsuyuki T, Torigoe K, Shimizu M, et al	腎臓内科	Dapagliflozin-induced Drug Reaction with Eosinophilia and Systemic Symptoms (DRESS) Followed by Acute Interstitial Nephritis (AIN).	Intern Med. 2024 Dec 1;63(23):3203–3208.	Case Report
19	Akeho N, Muta K, Torigoe K, et al	腎臓内科	Cases of Fabry Disease in Which Pathogenic Variants Are Not Detected in Parent–Child Pairs.	Cureus. 2024 Jul 9;16(7):e64127. (オンライン)	Case Report
20	Tsuyuki T, Abe S, Otsuka E, et al	腎臓内科	Relapsing peritoneal dialysis-associated peritonitis caused by Corynebacterium striatum: a case report.	CEN Case Rep. 2024 Nov 19.	Original Article
21	Torigoe K, Yamashita Y, Yamashita A, et al	腎臓内科	A Case of Refractory Peritoneal Dialysis-Related Peritonitis Caused by Streptococcus gordonii.	Cureus. 2025 Jan 10;17(1):e77248. (オンライン)	Case Report
22	Otsuka K, Takei A, Kawano H, et al	循環器内科	Straight Back Syndrome Presenting with Atrial Deformation and Multiple Atrial Tachycardias: A Case Report.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2025 Feb 25;jeaf069.	Original Article
23	Katsuoka S, Itonaga H, Sawayama Y, et al	血液内科	Septic arthritis as breakthrough invasive fusariosis after cord blood transplantation.	Leuk Res Rep. 2024 Sep 24;22:100483. (オンライン)	Case Report
24	Kurosaki Y, Martins DBG, Filho JLL	総合感染症科	Special Issue “Novel Diagnostic Technologies for SARS-CoV-2 and Other Emerging Viruses”.	Viruses. 2024 Aug 5;16(8):1252. (オンライン)	Original Article
25	Matsui K, Masuda S, Koizumi Y, et al	感染症内科学	Clinical Characteristics and Risk Factors for Severe Japanese Spotted Fever: A Retrospective Multicenter Study in the Nagasaki Prefecture, Western Japan.	Jpn J Infect Dis. 2025 Mar 21;78(2):63–70.	Original Article
26	Hisatomi K, Taguchi S, Matsumaru I, et al	心臓血管外科	Successful mitral repair for central bridge double-orifice mitral valve via right minithoracotomy.	JTCVS Tech. 2024 Apr 5;25:67–69. (オンライン)	Case Report
27	Eishi K, Eishi J, Matsumaru I, et al	心臓血管外科	Current management of tricuspid regurgitation: a focus on the spiral suspension approach.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jun;72(6):359–367.	Original Article
28	Hisatomi K, Eishi K, Matsumaru I, et al	心臓血管外科	Successful Tricuspidization of Bicuspid Aortic Valve Complicated by Anomalous Coronary Artery.	Ann Thorac Surg Short Rep. 2024 Jul 31;3(1):57–59. (オンライン)	Case Report

29	Hisatomi K, Miura T	心臓血管外科	The Importance of Left Ventricular End-Systolic Diameter for Aortic Valve Replacement in Japanese Asymptomatic Patients With Chronic Severe Aortic Regurgitation.	Circ J. 2024 Nov 25;88(12):1962–1964.	Original Article
30	Hisatomi K, Miyanaga T, Miura T, et al	心臓血管外科	Gerbode defect resulting from Group B Streptococcus infective endocarditis: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Jun 19;10(1):151. (オンライン)	Original Article
31	Fujioka M, Fujiwara K, Koga K, et al	形成外科	What degree of deformity resulting from upper auricular wedge resection in elderly patients is acceptable?	JPRAS Open. 2025 Mar 7;44:284–290. (オンライン)	Original Article
32	Shirakura H, Iwao A, Ikari N, et al	形成外科	Reconstruction of traumatic tibial nerve defect with two parallel conduit strands: a case report.	Case Reports Plast Surg Hand Surg. 2024 Sep 30;11(1):2407340. (オンライン)	Case Report
33	Koga M, Ideguchi R, Kono R, et al	放射線科	Dynamic Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Imaging Findings and the Relevance of Histopathological Findings in Intraocular Solitary Fibrous Tumors.	Cureus. 2025 Jan 11;17(1):e77299. (オンライン)	Case Report
34	Aoki Y, Hayakawa K, Suyama K	高度救命救急センター	Self-Resolving Pulsatile Frontal Mass Following Blunt Head Trauma.	J Am Coll Emerg Physicians Open. 2025 Jan 13;6(1):100025. (オンライン)	Case Report
35	Aoki Y, Paghubasan J, Tiglao PJ, et al	高度救命救急センター	Characteristics of snakebite patients due to Naja samarensis in the Philippines: a prospective hospital-based study.	Trans R Soc Trop Med Hyg. 2025 Jan 3;trae110.	Original Article
36	Aoki Y, Smith C, Ariyoshi K	高度救命救急センター	Another potential etiology for cardiac manifestation after snakebite.	Trop Med Health. 2025 Feb 19;53(1):22. (オンライン)	Letter
37	Miyoshi T, Otsuru M, Morishita K, et al	口腔外科	Differences Between Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw Caused by Bisphosphonates and Denosumab: Histological, Molecular Biological, and Clinical Studies.	Cureus. 2024 Jun 21;16(6):e62855. (オンライン)	Original Article
38	Murata M, Kosai K, Mitsumoto-Kaseida F, et al	感染症内科学	Antimicrobial susceptibility and resistance mechanisms to antipseudomonal β -lactams in <i>Pseudomonas aeruginosa</i> isolates from blood.	Microbiol Spectr. 2025 Mar 31;13(5):e0279024.	Original Article
39	Itonaga H, Fukushima T, Kato K, et al	細胞療法部	Allogeneic transplantation for adult T-cell leukemia/lymphoma in adolescent and young adults and young patients: A nationwide retrospective study by the ATL working group of the Japan society for transplantation and cellular therapy.	Hematol Oncol. 2024 Nov;42(6):e3315.	Original Article
40	Itonaga H, Miyazaki Y, Fujioka M, et al	細胞療法部	Prognostic impact of the conditioning intensity on outcomes after allogeneic transplantation for MDS with low blasts: a nationwide retrospective study by the adult MDS working group of the Japan Society for Transplantation and Cellular Therapy.	Bone Marrow Transplant. 2024 Aug;59(8):1107–1117.	Original Article
41	Nagai K, Tomari N, Egawa S, et al	細胞療法部	Feasibility evaluation of a blood rotation system for efficient blood product utilization in remote island settings.	Vox Sang. 2024 Jun;119(6):548–555.	Original Article
42	Tsushima Y, Okoshi EN, Ishijima S, et al	病理診断科・病理部	Presence of focal usual interstitial pneumonia is a key prognostic factor in progressive pulmonary fibrosis.	Histopathology. 2024 Jul;85(1):104–115.	Original Article

43	Tasaki Y, Yamazaki T, Miyazaki S, et al	放射線科	Additional chemoradiotherapy for superficial esophageal squamous cell carcinoma after near-circumferential or full-circumferential noncurative endoscopic submucosal dissection: a retrospective study.	BMC Gastroenterol. 2024 Jul 23;24(1):232. (オンライン)	Original Article
44	Oikawa M, Hanada M, Nagura H, et al	リハビリテーション部	Association between health-related quality of life and perioperative exercise capacity in older postoperative patients with non-small cell lung cancer.	J Thorac Dis. 2024 Dec 31;16(12):8300–8308.	Original Article
45	Hanada M, Nonoyama T, Ikeuchi T, et al	リハビリテーション部	Feasibility of a problem-solving exercise program based on short physical performance battery for older patients with chronic respiratory diseases: A multicenter, pilot clinical trial.	Respir Investig. 2024 Nov;62(6):1117–1123.	Original Article
46	Tanaka Y, Yano Y, Watanabe T, et al	リハビリテーション部	Association Between Disease Severity and Frailty in Patients with Aortic Stenosis.	Int Heart J. 2024 Sep;65(5):817–822.	Original Article
47	Yonezaki S, Shimizu MS, Ota T, et al	感染症内科学	Multiple arterial aneurysms in a patient with spondylitis following intravesical Bacillus Calmette–GuAcrin administration for bladder cancer: A case report.	J Infect Chemother. 2025 Feb;31(2):102549.	Case Report
48	Sato S, Kawazoe Y, Murata F, et al	臨床研究センター	Estimation of the adjusted risk difference for very rare events, large samples, and extreme exposure frequency: Application of Vaccine Effectiveness, Networking, and Universal Safety study data.	Ann Clin Epidemiol. 2025 Jan 24;7(2):50–60. (オンライン)	Original Article
49	Tanaka T, Oshima K, Kawano K, et al	感染制御教育センター	Nationwide Longitudinal Annual Survey of HIV/AIDS Referral Hospitals in Japan From 1999 to 2021: Trend in Non-AIDS-defining Cancers Among Individuals Infected With HIV-1.	J Acquir Immune Defic Syndr. 2024 May 1;96(1):1–10.	Original Article
50	Ashizawa N, Takazono T, Ota K, et al	第二内科	Pre-clinical and clinical evaluation of a surface plasmon field-enhanced fluorescence spectroscopy (SPFS) antigen test for detecting SARS-CoV-2.	J Infect Chemother. 2025 Jan;31(1):102504.	Original Article
51	Sakamoto T, Miyamoto H, Hashizume J, et al	薬剤部	Differences in the Adverse Event Profiles of Sodium–Glucose Cotransporter 2 Inhibitors used in Patients with DiabetesA?Mellitus and Heart Failure: An Analysis Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database.	Clin Drug Investig. 2024 Oct;44(10):761–771.	Original Article
52	Akagi T, Hamano H, Miyamoto H, et al	薬剤部	Evaluating the impact of loperamide on irinotecan-induced adverse events: a disproportionality analysis of data from the World Health Organization pharmacovigilance database (VigiBase).	Eur J Clin Pharmacol. 2025 Jan;81(1):129–137.	Original Article
53	Sakamoto T, Miyamoto H, Hashizume J, et al	薬剤部	Authors' Reply to Noguchi et al. Comment on: "Differences in the Adverse Event Profiles of Sodium–Glucose Cotransporter 2 Inhibitors Used in Patients with Diabetes and Heart Failure: An Analysis Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database".	Clin Drug Investig. 2025 Jan;45(1):47–49.	Letter
54	Hara Y, Yamaguchi R, Otsubo R, et al	放射線科	Histopathological Downgrading of Borderline Phyllodes Tumor in a Young Patient Following Chemotherapy: A Case Report.	J Breast Cancer. 2024 Oct;27(5):343–349.	Case Report
55	Sako A, Matsuse M, Saenko V, et al	内分泌・代謝内科	TERT Promoter Mutations Increase Tumor Aggressiveness by Altering TERT mRNA Splicing in Papillary Thyroid Carcinoma.	J Clin Endocrinol Metab. 2024 Sep 16;109(10):e1827–e1838.	Original Article
56	Kubo M, Horie I, Tokumitsu JI, et al	内分泌・代謝内科	Exercise-associated Hyponatremia Developing Immediately after a Musical Stage Performance in a Healthy Actress.	Intern Med. 2025 Mar 1;64(5):735–740.	Case Report

57	Shigeno R, Horie I, Haraguchi A, et al	内分泌・代謝内科	A Randomized Controlled Trial on the Effect of Luseogliflozin on Bone Microarchitecture Evaluated Using HR-pQCT in Elderly Type 2 Diabetes.	Diabetes Ther. 2024 Oct;15(10):2233–2248.	Original Article
58	Takahashi K, Ozawa E, Nakao Y, et al	消化器内科	Backward leap technique using a novel 0.018-inch guidewire.	Endoscopy. 2025 Jan 31;57(S 01):E90–E91.	Original Article
59	Akashi T, Yamaguchi N, Isomoto H	消化器内科	Recent Advances in Gastrointestinal Cancer Endoscopic Diagnosis and Treatment: Focusing on Older Adults.	Intern Med. 2025 Mar 22.	Original Article
60	Tanaka H, Hashiguchi K, Tabuchi M, et al	消化器内科	(18)F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography parameters are associated with histological outcomes in superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Sci Rep. 2024 Jul 30;14(1):17493. (オンライン)	Original Article
61	Araki T, Hayashi K, Shimokawa M, et al	消化器内科	Comparison of inflammatory markers before and after nanoliposomal irinotecan and fluorouracil with folic acid in patients with pancreatic cancer: results from the NAPOLEON-2 study (NN-2302).	Ther Adv Med Oncol. 2025 Feb 21;17:17588359251320768. (オンライン)	Original Article
62	Takahashi K, Ozawa E, Nakao Y, et al	消化器内科	Successful balloon fixation technique to prevent dislocation of a fully covered self-expanding metal stent for biliary stricture.	Endoscopy. 2025 Jan;57(S 01):E88–E89.	Original Article
63	Araki T, Sonoda Y, Shimokawa M, et al	消化器内科	Relationship between neutropenia caused by nanoliposomal irinotecan/fluorouracil/leucovorin and treatment outcomes in the NAPOLEON-2 study (NN-2301).	Sci Rep. 2025 Jan 27;15(1):3427. (オンライン)	Original Article
64	Komori A	消化器内科	Reply to correspondence on “Comparison of four histological scoring systems for autoimmune hepatitis to improve diagnostic sensitivity”.	Clin Mol Hepatol. 2024 Oct;30(4):1035–1036.	Original Article
65	Tajima K, Miuma S, Miyaaki H, et al	消化器内科	Total bile acids levels as a stratification tool for screening portopulmonary hypertension in patients with decompensated cirrhosis.	Hepatol Res. 2024 Nov;54(11):1049–1059.	Original Article
66	Takahashi K, Ozawa E, Miyaaki H, et al	消化器内科	Fully-Covered Self-Expandable Metal Stent for Hepaticojejunostomy Anastomotic Stricture After Living Donor Liver Transplantation: A Case Series.	Transplant Proc. 2024 Sep;56(7):1593–1597.	Case Report
67	Mori T, Ozawa E, Sasaki R, et al	消化器内科	Are transmembrane 6 superfamily member 2 gene polymorphisms associated with steatohepatitis after pancreaticoduodenectomy?	JGH Open. 2024 Jun 25;8(6):e13113. (オンライン)	Original Article
68	Sawa K, Hayashi K, Sonoda Y, et al	消化器内科	Drug-Induced Chylothorax During Chemotherapy With Ramucirumab and Paclitaxel for Advanced Gastric Cancer.	Cureus. 2025 Jan 23;17(1):e77867. (オンライン)	Case Report
69	Miyaaki H, Miuma S, Fukushima M, et al	消化器内科	Liver fibrosis analysis using digital pathology.	Med Mol Morphol. 2024 Sep;57(3):161–166.	Original Article
70	Araki T, Kawahira M, Shimokawa M, et al	消化器内科	Real-World Analysis of the Correlation between Overall Survival and Progression-Free Survival in Advanced Pancreatic Cancer: Results of NAPOLEON-1 and 2 Studies.	Oncology. 2024 Oct 19:1–11.	Original Article
71	Kawasaki-Inomata H, Tabuchi M, Norimatsu K, et al	消化器内科	Significance of P53-Binding Protein 1 as a Novel Molecular Histological Marker for Hypopharyngeal Squamous Neoplasms.	Cancers (Basel). 2024 Aug 28;16(17):2987. (オンライン)	Original Article

72	Jubashi A, Nakayama I, Koganemaru S, et al	消化器内科	Prognostic and predictive factors for the efficacy and safety of trastuzumab deruxtecan in HER2-positive gastric or gastroesophageal junction cancer.	Gastric Cancer. 2025 Jan;28(1):63–73.	Original Article
73	Yamaguchi N, Sakaguchi T, Wei JJ, et al	消化器内科	The C/C Genotype of rs1231760 in RGS2 Is a Risk Factor for the Progression of H. pylori-Positive Atrophic Gastritis by Increasing RGS2 Expression.	Diagnostics (Basel). 2024 Nov 15;14(22):2563. (オンライン)	Original Article
74	Fukushima M, Miyaaki H, Nakao Y, et al	消化器内科	Characterizing alcohol-related and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease cirrhosis via fibrotic pattern analysis.	Sci Rep. 2024 Oct 10;14(1):23679. (オンライン)	Original Article
75	Miuma S, Miyaaki H, Taura N, et al	消化器内科	Elevated intestinal fatty acid-binding protein levels as a marker of portal hypertension and gastroesophageal varices in cirrhosis.	Sci Rep. 2024 Oct 23;14(1):25003. (オンライン)	Original Article
76	Fukushima M, Miyaaki H, Sasaki R, et al	消化器内科	Benefits of Liver Volume and Serum Zinc Level Assessment for the Screening of Covert Hepatic Encephalopathy in Patients with Child–Pugh Class A Cirrhosis.	Diagnostics (Basel). 2024 Dec 25;15(1):23. (オンライン)	Original Article
77	Umeda M, Kojima K, Michitsuji T, et al	リウマチ・膠原病内科	Successful treatment of systemic lupus erythematosus with residual disease activity by switching from belimumab to anifrolumab.	Mod Rheumatol. 2024 Oct 15;34(6):1281–1283.	Original Article
78	Tomokawa T, Horai Y, Hara K, et al	リウマチ・膠原病内科	Restricted Movement Associated with Unilateral Diffuse Fasciitis.	Intern Med. 2025 Feb 8.	Original Article
79	Horai Y, Shimizu T, Nakamura H, et al	リウマチ・膠原病内科	Recent Advances in Pathogenesis, Diagnostic Imaging, and Treatment of Sjögren’s Syndrome.	J Clin Med. 2024 Nov 7;13(22):6688. (オンライン)	Original Article
80	Kawahara C, Fukui S, Michitsuji T, et al	リウマチ・膠原病内科	Influences of advanced age in rheumatoid arthritis: A multicentre ultrasonography cohort study.	Mod Rheumatol. 2024 Oct 15;34(6):1142–1148.	Original Article
81	Iwamoto N, Chiba K, Sato S, et al	リウマチ・膠原病内科	Preferable effect of CTLA4-Ig on both bone erosion and bone microarchitecture in rheumatoid arthritis revealed by HR-pQCT.	Sci Rep. 2024 Nov 12;14(1):27673. (オンライン)	Original Article
82	Uchida T, Fukui S, Iwamoto N, et al	リウマチ・膠原病内科	Absence of Glucocorticoids Concomitant With Avacopan and Subsequent Liver Injury in Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis.	J Rheumatol. 2024 Nov 1;51(11):1146–1148. (オンライン)	Letter
83	Tsuji Y, Koga T, Tomokawa T, et al	リウマチ・膠原病内科	Efficacy and safety of canakinumab in familial Mediterranean fever in Japan: a single-centre retrospective study.	Clin Exp Rheumatol. 2024 Oct;42(10):2105–2106.	Letter
84	Koga T, Sato S, Furukawa K, et al	リウマチ・膠原病内科	Investigating the impact of tocilizumab on serum cytokines concentrations in Japanese FMF patients: a sub-analysis of the NUH01FMF study.	Immunol Med. 2025 Mar;48(1):70–77.	Original Article
85	Iwamoto N, Sato S, Furukawa K, et al	リウマチ・膠原病内科	Association of denosumab with serum cytokines, chemokines, and bone-related factors in patients with rheumatoid arthritis: A post hoc analysis of a multicentre, open-label, randomised, parallel-group study.	Mod Rheumatol. 2024 Aug 20;34(5):936–946.	Original Article
86	Kurushima S, Koga T, Umeda M, et al	リウマチ・膠原病内科	Impact of Janus kinase inhibitors and methotrexate on interstitial lung disease in rheumatoid arthritis patients.	Front Immunol. 2024 Dec 16;15:1501146. (オンライン)	Original Article

87	Koga T, Kawashiri SY, Nonaka F, et al	リウマチ・膠原病内科	The COVID-19 Pandemic Heightens Interest in Cytokine Storm Disease and Advances in Machine Learning Diagnosis, Telemedicine, and Primordial Prevention of Rheumatic Diseases.	Eur J Rheumatol. 2024 Nov 28;11(4):410-417.	Original Article
88	Horai Y, Kurushima S, Kawakami A	リウマチ・膠原病内科	Current Diagnosis and Treatment of Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis: A Review Including a Comparison of Characteristics in Europe and Japan.	J Clin Med. 2025 Mar 4;14(5):1724. (オンライン)	Original Article
89	Koga T, Kita K, Okumura J, et al	リウマチ・膠原病内科	A novel frameshift mutation in ADCK1 identified in a case of chronic fatigue syndrome successfully treated with oral 5-ALA/SFC.	Immunol Med. 2024 Dec 26:1-5.	Original Article
90	Horai Y, Kurushima S, Shimizu T, et al	リウマチ・膠原病内科	A Review of the Impact of Sjögren's Syndrome and/or the Presence of Anti-Ro/SS-A Antibodies on Therapeutic Strategies for Rheumatoid Arthritis.	J Clin Med. 2025 Jan 17;14(2):568. (オンライン)	Original Article
91	Origuchi T, Umeda M, Fukui S, et al	リウマチ・膠原病内科	Analysis of musculoskeletal ultrasound findings and cytokines/growth factors in glucocorticoid-resistant polymyalgia rheumatica.	Immunol Med. 2024 Nov 19:1-8.	Original Article
92	Sumiyoshi R, Kawashiri SY, Shimizu T, et al	リウマチ・膠原病内科	Effectiveness of Etanercept Biosimilar Initiating for Etanercept-Naïve Patients, Using Ultrasound, Clinical, and Biomarker Assessments in Outcomes of Real-World Therapy (ENPORT-NGSK Study): An Interventional, Multicenter, Open-Label, Single-Arm Clinical Trial.	J Clin Med. 2025 Mar 6;14(5):1775. (オンライン)	Original Article
93	Sumiyoshi R, Kawashiri SY, Shimizu T, et al	リウマチ・膠原病内科	Efficacy of etanercept biosimilar switching from etanercept reference product, using ultrasound and clinical data in outcomes of real world therapy (ESCORT-NGSK Study).	Drug Discov Ther. 2025 Mar 6;19(1):29-37.	Original Article
94	Sumiyoshi R, Koga T, Kawakami A	リウマチ・膠原病内科	Biomarkers and Signaling Pathways Implicated in the Pathogenesis of Idiopathic Multicentric Castleman Disease/Thrombocytopenia, Anasarca, Fever, Reticulin Fibrosis, Renal Insufficiency, and Organomegaly (TAFRO) Syndrome.	Biomedicines. 2024 May 21;12(6):1141. (オンライン)	Original Article
95	Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, et al	リウマチ・膠原病内科	Dynamics of Serum Cytokines and Chemokines in Patients With Idiopathic Multicentric Castleman Disease: From a Phase Ib Investigator-Initiated Trial of Filgotinib.	Cureus. 2025 Feb 13;17(2):e78974. (オンライン)	Original Article
96	Fukui S, Michitsuji T, Endo Y, et al	リウマチ・膠原病内科	Distinct clinical outcomes based on multiple serum cytokine and chemokine profiles rather than autoantibody profiles and ultrasound findings in rheumatoid arthritis: a prospective ultrasound cohort study.	RMD Open. 2025 Jan 25;11(1):e005163. (オンライン)	Original Article
97	Fukui S, Sumiyoshi R, Koga T, et al	リウマチ・膠原病内科	A Phase Ib Investigator-Initiated Trial of Filgotinib in Patients With Idiopathic Multicentric Castleman Disease.	Cureus. 2025 Feb 11;17(2):e78865. (オンライン)	Original Article
98	Shimizu T, Endo Y, Umeda M, et al	リウマチ・膠原病内科	Clinical Images: Erythema on the toes in anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis.	ACR Open Rheumatol. 2025 Mar;7(3):e70011.	Case Report
99	Obase Y	呼吸器内科	Implication of "Cough hypersensitivity syndrome (CHS)" in cough treatment.	Respir Investig. 2024 Nov;62(6):960-962.	Original Article
100	Takemoto S, Fukuda M, Ogata R, et al	呼吸器内科	Phase II study of ramucirumab and docetaxel for previously platinum-treated patients with non-small cell lung cancer and malignant pleural effusion (PLEURAM study).	Transl Lung Cancer Res. 2024 Oct 31;13(10):2673-2682.	Original Article

101	Irifune S, Ide S, Koga S, et al	呼吸器内科	Pulmonary Nocardiosis Caused by <i>Nocardia sputorum</i> Identified via 16S rRNA Gene Sequencing: A Case Report.	Cureus. 2024 Aug 4;16(8):e66137. (オンライン)	Case Report
102	Ishimoto H, Sakamoto N, Okuno D, et al	呼吸器内科	Novel method of attaching a suction tube externally to a tracheal tube as an insertion route for a Fogarty catheter in cryobiopsy: Retrospective comparative study.	Respir Investig. 2024 Jul;62(4):732–737.	Original Article
103	Ishimoto H, Sakamoto N, Yura H, et al	呼吸器内科	Successful granulocyte–macrophage colony–stimulating factor inhalation therapy for recurrent autoimmune pulmonary alveolar proteinosis after lung transplantation: A case report.	Respir Investig. 2025 Jan;63(1):180–182.	Case Report
104	Tokito T, Kido T, Sato S, et al	呼吸器内科	Favorable impact of azithromycin on patients in the intensive care unit with coronavirus disease 2019: Insights from the first wave using a Japanese database.	Respir Med. 2024 Nov–Dec;234:107834.	Original Article
105	Taniguchi H, Chakraborty S, Takahashi N, et al	呼吸器内科	ATR inhibition activates cancer cell cGAS/STING–interferon signaling and promotes antitumor immunity in small–cell lung cancer.	Sci Adv. 2024 Sep 27;10(39):eado4618.	Original Article
106	Miyazaki T, Shimamura S, Nagayoshi Y, et al	呼吸器内科	Mechanisms of multidrug resistance caused by an Ipi1 mutation in the fungal pathogen <i>Candida glabrata</i> .	Nat Commun. 2025 Jan 25;16(1):1023. (オンライン)	Original Article
107	Otsuka E, Kitamura M, Funakoshi S, et al	腎臓内科	Roxadustat has risks of reversible central hypothyroidism in patients undergoing hemodialysis: a single–center retrospective cohort study.	Ren Fail. 2024 Dec;46(2):2410375.	Original Article
108	Fukuda H, Kitamura M, Sawase A, et al	腎臓内科	Tubulointerstitial nephritis with storiform fibrosis in a patient with angioimmunoblastic T–cell lymphoma.	CEN Case Rep. 2025 Feb;14(1):39–46.	Case Report
109	Sawase A, Kitamura M, Morimoto M, et al	腎臓内科	Renal tubular necrosis associated with anagrelide administration: a case report.	CEN Case Rep. 2024 Dec;13(6):510–516.	Case Report
110	Kitamura M, Yamashita H, Sawase A, et al	腎臓内科	Exposure and outcomes of aortic valve change in patients initiating dialysis.	Clin Exp Nephrol. 2025 Jan;29(1):91–98.	Original Article
111	Kitamura M, Biederman L, Ibrahim D, et al	腎臓内科	Correlation of Red Blood Cell Casts With Renal Dysfunction in Patients With Infection–Related Glomerulonephritis.	Arch Pathol Lab Med. 2024 May 1;148(5):545–552.	Original Article
112	Otsuka E, Kitamura M, Funakoshi S, et al	腎臓内科	Improving glycemic control: transitioning from dulaglutide to tirzepatide in patients with type 2 diabetes undergoing hemodialysis.	Front Pharmacol. 2024 May 30;15:1362242. (オンライン)	Original Article
113	Tsuyuki T, Kitamura M, Takatani M, et al	腎臓内科	Simultaneous Presentation of Minimal Change Disease and Tubulointerstitial Nephritis Associated with Primary Sjögren’s Syndrome and Hashimoto’s Thyroiditis: A Case Report.	Intern Med. 2025 Feb 1.	Original Article
114	Tsuyuki T, Kitamura M, Fukuda H, et al	腎臓内科	Prognostic differences between pre–existing atrial fibrillation in chronic kidney disease and new–onset atrial fibrillation at hemodialysis initiation: a retrospective single–center cohort study.	PLoS One. 2025 Mar 25;20(3):e0320336. (オンライン)	Original Article
115	Kitamura M, Yamashita H, Sugiyama S, et al	腎臓内科	Unplanned hemodialysis initiation: A retrospective analysis of patient characteristics and prognosis in an emergency hospital.	Ther Apher Dial. 2024 Dec;28(6):931–940.	Original Article

116	Gosho H, Kawano H, Otsuka K, et al	循環器内科	Polymorphic Ventricular Tachycardia Associated with Coronary Vasospasm in a Patient with Coronavirus Disease 2019 Infection.	Intern Med. 2024 Oct 15;63(20):2815–2820.	Case Report
117	Kurobe M, Yamanaka Y, Uda A, et al	循環器内科	Identification of Physician Concerns Regarding Implementation of the Nagasaki Acute Myocardial Infarction Secondary Prevention Clinical Pathway.	Circ Rep. 2024 Nov 15;6(12):555–563. (オンライン)	Original Article
118	Kawano H, Kitamura M, Muta K, et al	循環器内科	(123)I-12-Methyl Iodophenyl Pentadecanoic Acid and (201)Thallium Dual Myocardial Single-Photon Emission Computed Tomography (BMIPP/Tl SPECT) Detects Coronary Microvascular Dysfunction in a Patient With Antiphospholipid Syndrome Nephropathy.	Circ J. 2025 Feb 25;89(3):392.	Original Article
119	Kawano H, Ueki N, Senoo A, et al	循環器内科	Isolated Atrial Amyloidosis in a Patient with Aortic Regurgitation and Paroxysmal Atrial Fibrillation.	Intern Med. 2025 Feb 22.	Original Article
120	Nishizawa RH, Kawano H, Yoshimuta T, et al	循環器内科	Effects of tafamidis on the left ventricular and left atrial strain in patients with wild-type transthyretin cardiac amyloidosis.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024 Apr 30;25(5):678–686.	Original Article
121	Kawano H, Nishizawa RH, Eguchi C, et al	循環器内科	Amelioration of global longitudinal strain and myocardial 99mTc-pyrophosphate uptake after tafamidis treatment of wild-type transthyretin cardiac amyloidosis.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2024 Dec 31;26(1):172.	Original Article
122	Iwasaki R, Kawano H, Fukui K, et al	循環器内科	Amyloid Deposition Mainly Localized in the Basal Area of the Left Ventricle in a Patient with Amyloid Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	Intern Med. 2025 Feb 15;64(4):569–573.	Case Report
123	Kawano H, Umeda M, Honda T, et al	循環器内科	Fatal Systemic Capillary Leak Syndrome in a Patient with a COVID-19 Infection.	Intern Med. 2024 Jul 1;63(13):1893–1897.	Case Report
124	Taira Y, Egoshi T, Kaida K, et al	循環器内科→虫歯治療室	Effects of sodium copper- and sodium iron-chlorophyllin primers on resin bonding to dentin.	Eur J Oral Sci. 2024 Oct;132(5):e13017.	Original Article
125	Kurobe M, Baba K, Nunohiro T, et al	循環器内科	Impact of Implementation of a Region-Wide Low-Density Lipoprotein Cholesterol Management Clinical Pathway for the Secondary Prevention of Acute Myocardial Infarction.	Circ J. 2024 Oct 25;88(11):1825–1832.	Original Article
126	Honda T, Kawano H, Iwasaki R, et al	循環器内科	Acute Limb Ischemia Due to Paradoxical Thrombus Through Patent Foramen Ovale.	Circ Rep. 2024 Oct 29;6(12):598–599. (オンライン)	Original Article
127	Otsuka K, Kawano H, Koike H, et al	循環器内科	Atrial Lesion and Diastolic Dysfunction May Be Associated With Atrial Fibrillation in Patients With Cardiac Amyloidosis.	Circ Rep. 2024 Nov 6;6(12):539–546. (オンライン)	Original Article
128	Akashi R, Kawano H, Ikeda S, et al	循環器内科	Occlusion of Dorsalis Pedis Artery in an Athlete.	Intern Med. 2025 Jan 15.	Original Article
129	Koyanagi Y, Sakai E, Yamaguchi Y, et al	保存・補綴歯科 義歯補綴治療室	Dennd2c Negatively Controls Multinucleation and Differentiation in Osteoclasts by Regulating Actin Polymerization and Protrusion Formation.	Int J Mol Sci. 2024 Oct 25;25(21):11479. (オンライン)	Original Article
130	Miyazaki Y	血液内科	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2023: leukemia–6. Myelodysplastic syndromes (MDS).	Int J Hematol. 2025 Mar;121(3):294–317.	Original Article

131	Ando K, Miyazaki Y	血液内科	Myelodysplastic syndromes among atomic bomb survivors in Nagasaki: similarities to and differences from de novo and therapy-related cases.	J Radiat Res. 2024 Dec 15;65(Supplement_1):i88-i96.	Original Article
132	Fujioka M, Itonaga H, Nakazawa H, et al	血液内科	Superior Survival After Unrelated Allogeneic Stem Cell Transplantation With Low-Dose ATG Compared to Low-Dose TBI in Myeloablative Fludarabine/Busulfan-Based Regimen for MDS on Behalf of the Adult MDS Working Group of the JSTCT.	Transplant Cell Ther. 2025 Jan;31(1):18.e1-18.e12.	Original Article
133	Kobayashi Y, Ando K, Imaizumi Y, et al	血液内科	RUNX1 expression is regulated by a super-enhancer and is a therapeutic target in adult T-cell leukemia/lymphoma.	Leuk Lymphoma. 2024 Dec;65(14):2116-2128.	Original Article
134	Yamada Y, Miyoshi H, Takeuchi M, et al	血液内科	TIGIT expression on neoplastic cells is a poor prognostic factor for adult T-cell leukaemia/lymphoma.	Pathology. 2024 Dec;56(7):993-999.	Original Article
135	Hashimoto M, Kato T, Yokota K, et al	血液内科	Improved survival among elderly patients with aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma: Impact of mogamulizumab-containing chemotherapy.	Int J Hematol. 2024 Dec;120(6):694-704.	Original Article
136	Tsuruoka M, Huynh MK, Toizumi M, et al	総合感染症科	Characteristics and long-term health outcomes of the first domestic COVID-19 outbreak cases in Da Nang, Vietnam: a longitudinal cohort study.	Trop Med Health. 2025 Jan 14;53(1):6. (オンライン)	Original Article
137	Fukamoto J, Yoshida M, Tokuoka SM, et al	総合感染症科	Pivotal roles of Plasmodium falciparum lysophospholipid acyltransferase 1 in cell cycle progression and cytostome internalization.	Commun Biol. 2025 Jan 29;8(1):142. (オンライン)	Original Article
138	Teklemichael AA, Teshima A, Hirata A, et al	総合感染症科	Discovery of antimalarial drugs from secondary metabolites in actinomycetes culture library.	Trop Med Health. 2024 Jul 9;52(1):47. (オンライン)	Original Article
139	Hackman J, Hibberd ML, Swarthout TD, et al	総合感染症科	Evaluating methods for identifying and quantifying Streptococcus pneumoniae co-colonization using next-generation sequencing data.	Microbiol Spectr. 2024 Nov 5;12(12):e0364323.	Original Article
140	Toizumi M, Takamatsu M, Toda K, et al	総合感染症科	Progresses Toward Polio Eradication in Asian Countries: Its History and Japan's Contributions.	Pediatr Infect Dis J. 2024 Oct 1;43(10):e347-e353.	Original Article
141	Adewuyi O', Balogun MS, Otomaru H, et al	総合感染症科	Molecular Epidemiology, Drug-Resistant Variants, and Therapeutic Implications of Hepatitis B Virus and Hepatitis D Virus Prevalence in Nigeria: A National Study.	Pathogens. 2025 Jan 20;14(1):101. (オンライン)	Original Article
142	Sakurai Y, Okada S, Ozeki T, et al	総合感染症科	SARS-CoV-2 Omicron subvariants progressively adapt to human cells with altered host cell entry.	mSphere. 2024 Sep 25;9(9):e0033824.	Original Article
143	Furuyama W, Yamada K, Sakaguchi M, et al	総合感染症科	Marburg virus exploits the Rab11-mediated endocytic pathway in viral-particle production.	Microbiol Spectr. 2024 Sep 3;12(9):e0026924.	Original Article
144	Nanbo A	総合感染症科	Current Insights into the Maturation of Epstein-Barr Virus Particles.	Microorganisms. 2024 Apr 17;12(4):806. (オンライン)	Original Article
145	Ikegawa M, Kano N, Ori D, et al	総合感染症科	HuR (ELAVL1) regulates the CCHFV minigenome and HAZV replication by associating with viral genomic RNA.	PLoS Negl Trop Dis. 2024 Sep 30;18(9):e0012553. (オンライン)	Original Article

146	Fujii Y, Suwa A, Tsuyuki Y, et al	総合感染症科	The First Case of a Cat Infected with <i>Burkholderia pseudomultivorans</i> , a Member of the <i>Burkholderia cepacia</i> Complex.	Vet Sci. 2024 Nov 12;11(11):559. (オンライン)	Case Report
147	Takazono T, Ide S, Adomi M, et al	総合感染症科	Risk Factors and Prognostic Effects of Aspergillosis as a Complication of Nontuberculous Mycobacterial Pulmonary Disease: A Nested Case-Control Study.	Mycoses. 2025 Jan;68(1):e70022.	Original Article
148	Takazono T, Saito Y, Tashiro M, et al	総合感染症科	Antifungal Treatment for Japanese Patients with Chronic Pulmonary Aspergillosis.	Infect Dis Ther. 2025 Jan;14(1):245-259.	Original Article
149	Takazono T, Namie H, Nagayoshi Y, et al	総合感染症科	Development of a score model to predict long-term prognosis after community-onset pneumonia in older patients.	Respirology. 2024 Aug;29(8):722-730.	Original Article
150	Tashiro M, Nakano Y, Shirahige T, et al	総合感染症科	Comprehensive Review of Environmental Surveillance for Azole-Resistant <i>Aspergillus fumigatus</i> : A Practical Roadmap for Hospital Clinicians and Infection Control Teams.	J Fungi (Basel). 2025 Jan 25;11(2):96. (オンライン)	Original Article
151	Tashiro M, Takazono T, Izumikawa K	総合感染症科	Overview of Fungi Classified as Risk Group 3 by the Japanese Society for Medical Mycology.	Med Mycol J. 2024 Nov;65(4):99-102.	Original Article
152	Muraoka D, Moi ML, Muto O, et al	臨床腫瘍科	Low-frequency CD8(+) T cells induced by SIGN-R1(+) macrophage-targeted vaccine confer SARS-CoV-2 clearance in mice.	NPJ Vaccines. 2024 Sep 18;9(1):173. (オンライン)	Original Article
153	Ashizawa K, Maruyama Y, Kobayashi T, et al	臨床腫瘍科	Guidelines for the management of pulmonary nodules detected by low-dose CT lung cancer screening 6th edition: compiled by the Japanese Society of CT Screening.	Jpn J Radiol. 2025 Mar;43(3):333-346.	Original Article
154	Honda K, Koike H, Tsutsui S, et al	臨床腫瘍科	Autoimmune pulmonary alveolar proteinosis presenting as localized multifocal GGOs: A case report.	Radiol Case Rep. 2024 Sep 20;19(12):6072-6075. (オンライン)	Case Report
155	Kanetaka K, Maruya Y, Higashi M, et al	胃・食道外科	A first-in-human clinical study of laparoscopic autologous myoblast sheet transplantation to prevent delayed perforation after duodenal endoscopic mucosal dissection.	Stem Cell Res Ther. 2024 Apr 23;15(1):117. (オンライン)	Original Article
156	Maruya Y, Akazawa Y, Norimatsu K, et al	胃・食道外科	Long-term prognosis and DNA damage status after oral mucosal epithelial cell sheet transplantation following esophageal endoscopic submucosal dissection for squamous cell carcinoma: A case series.	Regen Ther. 2024 Aug 10;26:557-563. (オンライン)	Original Article
157	Matsuo T, Kakita S, Honda H, et al	泌尿器科・腎移植外科	Relationship Between Tooth Loss Due to Chronic Periodontitis and Lower Urinary Tract Symptoms.	Medicina (Kaunas). 2024 Nov 7;60(11):1829. (オンライン)	Original Article
158	Matsuo T, Imamura R	泌尿器科・腎移植外科	Editorial Comments on "Exploring the association between chronic prostatitis and the risk of herpes zoster in a cohort study in Taiwan".	Int J Urol. 2025 Feb;32(2):144.	Original Article
159	Nakamura Y, Mitsunari K, Imamura R	泌尿器科・腎移植外科	Editorial Comment to Comorbidities in Japanese testicular cancer survivors: A multi-institutional, cross-sectional study.	Int J Urol. 2025 Feb;32(2):202-203.	Original Article
160	Mitsunari K, Fukushima H, Kurata H, et al	泌尿器科・腎移植外科	Predictive Factors for Early Biochemical Recurrence Following Robot-assisted Radical Prostatectomy.	Anticancer Res. 2024 Jul;44(7):3149-3154.	Original Article

161	Mochizuki Y, Araki K, Mitsunari K, et al	泌尿器科・腎移植外科	Spontaneous Rupture of Adrenal Myelolipoma: A Case Report With Review of the Literature.	IJU Case Rep. 2025 Mar 25;8(3):253–256. (オンライン)	Original Article
162	Fukushima H, Mitsunari K, Harada J, et al	泌尿器科・腎移植外科	Prognostic Predictors of Hypertension Outcomes After Adrenalectomy in Primary Aldosteronism.	In Vivo. 2024 Nov–Dec;38(6):2729–2734.	Original Article
163	Ohba K, Nakanishi H, Kawada K, et al	泌尿器科・腎移植外科	Predictive factors of nivolumab plus ipilimumab treatment efficacy in metastatic renal cell carcinoma patients.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Jul 7;54(7):827–832.	Original Article
164	Mori S, Matsuo T, Honda H, et al	泌尿器科・腎移植外科	Initial experience of enfortumab vedotin in a patient with metastatic urothelial carcinoma on hemodialysis: Two case reports.	IJU Case Rep. 2024 May 26;7(4):324–328. (オンライン)	Case Report
165	Matsuo T, Imamura R	泌尿器科・腎移植外科	Editorial Comment on Underactive bladder as defined by the International Continence Society in the 2023 Japan Community Health Survey.	Int J Urol. 2025 Jan;32(1):60.	Original Article
166	Matsuda T, Yamada S, Tsuchiyama A, et al	泌尿器科・腎移植外科	A case report of extra-abdominal desmoid tumor after kidney transplantation.	IJU Case Rep. 2025 Jan 9;8(2):142–145. (オンライン)	Original Article
167	Mori S, Matsuo T, Honda H, et al	泌尿器科・腎移植外科	Relationship Between Overactive Bladder and Bone Fracture Risk in Female Patients.	In Vivo. 2024 Jul–Aug;38(4):2031–2040.	Original Article
168	Ogawa Y, Morofuji Y, Tateishi Y, et al	脳神経外科	A Case of Filter Retrieval With an Aspiration Catheter for Filter Occlusion in Emergency Carotid Artery Stenting.	Cureus. 2024 Dec 31;16(12):e76684. (オンライン)	Case Report
169	Chikamatsu G, Morofuji Y, Okamura K, et al	脳神経外科	A case of dural arteriovenous fistula at the craniocervical junction successfully treated by transvenous embolization.	Clin Neurol Neurosurg. 2024 Oct;245:108456.	Case Report
170	Yoshimura S, Morofuji Y, Takahira R, et al	脳神経外科	Arterial spin labelling could detect the occlusion of inferior petrosal sinus for cavernous sinus dural arteriovenous fistula.	BJR Case Rep. 2024 Oct 25;10(6):uaae039. (オンライン)	Case Report
171	Shiozaki E, Morofuji Y, Nakamura H, et al	脳神経外科	Surgical thrombectomy for a huge free-floating thrombus in the internal carotid artery without atherosclerotic change.	J Vasc Surg. 2024 Sep 20;S0741–5214(24)01896–2.	Original Article
172	Harada S, Mohamed YH, Kusano M, et al	眼科	ilateral Fuchs' Superficial Marginal Keratitis Diagnosis and Treatment.	Life (Basel). 2024 Dec 11;14(12):1644. (オンライン)	Case Report
173	Machida A, Oishi A, Ikeda J, et al	眼科	Factors Associated with Success of Switching to Faricimab for Neovascular Age-Related Macular Degeneration Refractory to Intravitreal Aflibercept.	Life (Basel). 2024 Apr 4;14(4):476. (オンライン)	Original Article
174	Mohamed YH, Uematsu M, Kusano M, et al	眼科	A Novel Technique for Corneal Transepithelial Electrical Resistance Measurement in Mice.	Life (Basel). 2024 Aug 22;14(8):1046. (オンライン)	Original Article
175	Saito J, Machida A, Inoue D, et al	眼科	A Case of Parinaud Oculoglandular Syndrome in Which Bartonella DNA Was Detected in the Cornea and Conjunctiva by Polymerase Chain Reaction.	Medicina (Kaunas). 2024 Aug 31;60(9):1425. (オンライン)	Case Report

176	Mohamed MT, Inoue D, Yoshimura S, et al	眼科	Neuronal Intranuclear Inclusion Disease with a Corneal Disorder: A Case Report.	Medicina (Kaunas). 2024 Oct 22;60(11):1730. (オンライン)	Case Report
177	Mohamed YH, Uematsu M, Kusano M, et al	眼科	Is it really descemetocoele? Morphology of extremely thin membrane that remained after severe corneal melting: a case report.	Med Mol Morphol. 2025 Mar;58(1):69–74.	Case Report
178	Ashizuka T, Uematsu M, Mohamed MT, et al	眼科	A case of corneal opacity caused by atovaquone administration.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2024 Dec 12;37:102235. (オンライン)	Case Report
179	Matsumoto K, Honda Y, Maeda T, et al	耳鼻咽喉科	Association Between Geographic Location and Radiotherapy Treatment Delay in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma: A Retrospective Study.	Cureus. 2024 Nov 7;16(11):e73253. (オンライン)	Original Article
180	Soejima S, Wu CH, Matsuse H, et al	耳鼻咽喉科	Swallowing-related muscle inflammation and fibrosis induced by a single dose of radiation exposure in mice.	Lab Anim Res. 2024 Apr 1;40(1):12. (オンライン)	Original Article
181	Nishi H, Matsuda K, Terakado M, et al	耳鼻咽喉科	Analysis for type of 53BP1 nuclear expression by immunofluorescence as an indicator of genomic instability in oropharyngeal squamous epithelial lesions.	Sci Rep. 2024 Nov 11;14(1):27525. (オンライン)	Original Article
182	Shojinaga S, Yoshida H, Kanda Y, et al	耳鼻咽喉科	Support Desired by Parents of Infants With Hearing Impairments Diagnosed Through Newborn Hearing Screening: A Questionnaire-Based Survey.	Cureus. 2024 Dec 10;16(12):e75482. (オンライン)	Original Article
183	Murota H, Nakahara T, Noto S, et al	皮膚科・アレルギー科	Quality of Life in Adults with Atopic Dermatitis in Relation to Disease Severity: Nationwide Data in Japan.	Dermatol Ther (Heidelb). 2025 Feb;15(2):291–305.	Original Article
184	Murota H, Matsumoto M, Arima K, et al	皮膚科・アレルギー科	Current clinical practice of prurigo nodularis in Japan: A cross-sectional web-survey among dermatologists.	J Dermatol. 2025 Feb;52(2):348–352.	Original Article
185	Koike Y, Kuwatsuka S, Motooka D, et al	皮膚科・アレルギー科	Dysbiosis of the human skin mycobiome in patients receiving systemic IL-23 inhibitors.	Allergol Int. 2025 Jan;74(1):72–77.	Original Article
186	Takahashi R, Chiba K, Okazaki N, et al	整形外科	Effects of daily teriparatide, weekly high-dose teriparatide, or bisphosphonate on cortical and trabecular bone of vertebra and proximal femur in postmenopausal women with fragility fracture: Sub-analysis by quantitative computed tomography from the TERABIT study.	Bone. 2024 Oct;187:117189.	Original Article
187	Watanabe K, Chiba K, Shiraishi K, et al	整形外科	Microarchitectural analysis of the metacarpophalangeal joint using HR-pQCT in patients with rheumatoid arthritis: A comparison with healthy controls.	Bone. 2024 Dec;189:117250.	Original Article
188	Tomonaga I, Koseki H, Imai C, et al	整形外科	Incidence and characteristics of aspiration pneumonia in the Nagasaki Prefecture from 2005 to 2019.	BMC Pulm Med. 2024 Apr 20;24(1):191. (オンライン)	Original Article
189	Nomura K, Tomita M, Kuroda K, et al	整形外科	Overdiagnosis of atypical lipomatous tumors/well-differentiated liposarcomas by morphological diagnosis using only HE stained specimens: a case-control study with MDM2/CDK4 immunostaining and MDM2/CDK4 fluorescence in situ hybridization.	BMC Cancer. 2024 Nov 21;24(1):1437. (オンライン)	Original Article

190	Urakawa T, Soejima H, Yamoto K, et al	小児科	Comprehensive molecular and clinical findings in 29 patients with multi-locus imprinting disturbance.	Clin Epigenetics. 2024 Oct 5;16(1):138. (オンライン)	Original Article
191	Hasegawa Y, Miura S, Kagami M, et al	産科婦人科	Diagnosis and Genetic Counseling Before and After the Birth of Children With Joubert Syndrome and Beckwith-Wiedemann Syndrome.	Cureus. 2025 Mar 16;17(3):e80677. (オンライン)	Case Report
192	Iwata K, Hamaguchi D, Mizota T, et al	産科婦人科	Successful Treatment of Anti-N-Methyl-D-Aspartate Receptor Encephalitis With Bilateral Ovarian Teratomas Through Three Surgeries Without Loss of Fertility.	Cureus. 2025 Mar 28;17(3):e81381. (オンライン)	Case Report
193	Kanchi N, Kawata M, Yoshikawa Y, et al	精神科神経科	The potentiality of telepsychiatry using a teleoperated robot for a patient with alcohol abuse on an isolated island.	PCN Rep. 2024 Jul 29;3(3):e230. (オンライン)	Case Report
194	Kawahara H, Kanchi N, Kawata M, et al	精神科神経科	Training potential of a teleoperated humanoid robot for use by a young psychiatrist during childcare leave.	PCN Rep. 2024 Sep 8;3(3):e70008. (オンライン)	Case Report
195	Yoshimi S, Ishimaru H, Nagaoki K, et al	放射線科	Rectal Balloon Distention to Facilitate Retrograde Venous Embolization of an Arteriovenous Malformation.	J Vasc Interv Radiol. 2024 Dec;35(12):1876-1878.e3.	Letter
196	Egashira T, Ichinomiya T, Yokoyama A, et al	麻酔科	Cardioprotective Effects of Sodium-Glucose Cotransporter Subtype Inhibition on Ischemic and Pharmacological Preconditioning.	Cureus. 2024 May 6;16(5):e59757. (オンライン)	Original Article
197	Murata H	麻酔科	Bridging old and new: obturator nerve block in the obturator canal to prevent obturator jerk during transurethral resection of bladder tumor.	J Anesth. 2024 Dec 22.	Original Article
198	Araki H, Sekino M, Hasegawa Y, et al	麻酔科	Amniotic fluid embolism rescued using venoarterial extracorporeal membrane oxygenation without initial anticoagulation: A case report and literature review.	Medicine (Baltimore). 2024 May 17;103(20):e38176.	Case Report
199	Shintani R, Ichinomiya T, Tashiro K, et al	麻酔科	Comparison of Hemodynamic Effects of Remimazolam and Midazolam During Anesthesia Induction in Patients Undergoing Cardiovascular Surgery: A Single-Center Retrospective and Exploratory Study.	Cureus. 2024 Oct 21;16(10):e72032. (オンライン)	Original Article
200	Nakashima T, Sato S, Matsui H, et al	麻酔科	Estimating the Timeframe of Lactate Reduction in Acute Cardiovascular Disease Using Functional Data Analysis Based on Nonlinear Mixed Effects Models.	Int Heart J. 2024 Nov;65(6):1058-1065.	Original Article
201	Kaneko S, Makino M, Kawazoe Y, et al	麻酔科	A novel stimulating electrode attachment method designed to maintain electromyography-based neuromuscular monitoring detectability during laparoscopic surgery: a single-center randomized, double-blind, controlled pilot study.	J Anesth. 2024 Dec;38(6):811-820.	Original Article
202	Morimoto T, Ono M, Harada Y, et al	麻酔科	Anesthetic management in the lateral position in a patient with Parkinson's disease who developed severe long-seated forward flexion with the face buried between the knees: a case report.	JA Clin Rep. 2025 Feb 14;11(1):9. (オンライン)	Original Article
203	Shimizu Y, Kawashiri SY, Noguchi Y, et al	総合診療科	Association between eating speed and atherosclerosis in relation to growth differentiation factor-15 levels in older individuals in a cross-sectional study.	Sci Rep. 2024 Jul 17;14(1):16492. (オンライン)	Original Article
204	Shimizu Y, Arima K, Yamanashi H, et al	総合診療科	Association between atherosclerosis and height loss among older individuals.	Sci Rep. 2024 Apr 2;14(1):7776. (オンライン)	Original Article

205	Shimizu Y, Kawashiri SY, Yamanashi H, et al	総合診療科	Association between serum uric acid levels and cardio-ankle vascular index stratified by circulating level of CD34-positive cells among elderly Japanese men: a cross-sectional study.	Sci Rep. 2024 Sep 20;14(1):21965. (オンライン)	Original Article
206	Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, et al	総合診療科	Association Between Asian Flush and Satisfaction of Sleep via Alcohol Consumption Status in a Sample of Japanese Participants.	Med Sci (Basel). 2024 Nov 8;12(4):62. (オンライン)	Original Article
207	Shimizu Y, Kawashiri SY, Noguchi Y, et al	総合診療科	Feeling of incomplete bladder emptying and angiogenesis-related polymorphism rs3025020 among older community-dwelling individuals.	Geriatr Gerontol Int. 2024 Oct;24(10):1039-1044.	Original Article
208	Shimizu Y, Yoshida T, Ito K, et al	総合診療科	Impact of Autism on the Relation Between Sleep and Life Satisfaction in Japanese Adults.	Diseases. 2024 Nov 28;12(12):305. (オンライン)	Original Article
209	Shimizu Y, Yamanashi H, Noguchi Y, et al	総合診療科	Platelet count and hypertension as indicators of height loss in the general population: A prospective study.	PLoS One. 2024 Dec 2;19(12):e0314527. (オンライン)	Original Article
210	Kajiyama S, Chiba K, Aoki T, et al	スポーツ医学診療センター	Associations between fatty infiltration of rotator cuff muscles and tear size or location of rotator cuff tendon.	Front Surg. 2024 Aug 22;11:1416921. (オンライン)	Original Article
211	Oohira M, Kitamura M, Higuchi K, et al	保存・補綴歯科	Dental Deposits Are Differentially Associated With Periodontal Conditions and the Number of Teeth in Japanese Community-Dwelling Individuals: The Nagasaki Islands Study.	Clin Exp Dent Res. 2025 Feb;11(1):e70101.	Original Article
212	Oohira M, Kitamura M, Higuchi K, et al	保存・補綴歯科	Association between total functional tooth unit score and hemoglobin A1c levels in Japanese community-dwelling individuals: the Nagasaki Islands study.	BMC Oral Health. 2024 Oct 19;24(1):1254. (オンライン)	Original Article
213	Aka A, Matsuura T, Yoshimura A	保存・補綴歯科	An Evaluation of the Cytocompatibility of Endodontic Bioceramics in Human Periodontal-Ligament-Derived Cells.	J Funct Biomater. 2024 Aug 19;15(8):231. (オンライン)	Original Article
214	Torisu T, Sato J, Yamaguchi K, et al	保存・補綴歯科	Differences in the Prolonged Effectiveness Between Two Denture Adhesives With Different Rheological Characteristics.	Cureus. 2025 Feb 18;17(2):e79248. (オンライン)	Original Article
215	Harada K, Horinouchi R, Murakami M, et al	保存・補綴歯科	The disinfectant effects of portable ultraviolet light devices and their application to dentures.	Photodiagnosis Photodyn Ther. 2025 Feb;51:104434.	Original Article
216	Shirakura K, Nemoto TK, Nemoto YO, et al	小児歯科	Broadened substrate specificity of bacterial dipeptidyl-peptidase 7 enables release of half of all dipeptide combinations from peptide N-termini.	Biol Chem. 2025 Feb 10;406(1-2):51-64. (オンライン)	Original Article
217	Shoji M, Reynolds EC, Veith PD	矯正歯科	Analyses of biosynthesis mutants reveal that the fifth and sixth sugars of the Porphyromonas gingivalis O-glycan are L-fucose and N-acetylgalactosamine respectively.	Gene. 2025 Mar 5;939:149182.	Original Article
218	Sasaki Y, Matsuo T, Watanabe Y, et al	矯正歯科	Identification of nanaomycin A and its analogs by a newly established screening method for functional inhibitors of the type IX secretion system in Porphyromonas gingivalis.	J Antibiot (Tokyo). 2025 Jan;78(2):90-105.	Original Article
219	Miura KI, Otsuru M, Omori K, et al	口腔外科	Prognostic Factors in Squamous Cell Carcinoma of the Maxillary Gingiva and Hard Palate: A Retrospective Analysis From a Single Institution.	Cureus. 2025 Feb 4;17(2):e78487. (オンライン)	Original Article

220	Miura KI, Katase N, Sumi M, et al	口腔外科	A Case Report of Primary Intraosseous Carcinoma of the Mandible Initially Diagnosed as Mandibular Osteomyelitis.	Cureus. 2025 Feb 12;17(2):e78892. (オンライン)	Case Report
221	Miura KI, Otsuru M, Fukushima H, et al	口腔外科	Clinical Study on Postoperative Treatment for Patients at High Risk of Oral Squamous Cell Carcinoma Recurrence.	Cureus. 2025 Feb 2;17(2):e78395. (オンライン)	Original Article
222	Ohba S, Shido R, Naruse T, et al	口腔外科	Influence of unfavourable osteotomy on skeletal stability and temporomandibular joint symptoms in sagittal split ramus osteotomy.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2025 Jan 29:S0901-5027(25)00010-4.	Original Article
223	Naruse T, Suyama K, Fukushima H, et al	口腔外科	Recovery from inferior alveolar neurosensory changes after lower third molar extraction: A multicenter, retrospective study.	Medicine (Baltimore). 2025 Jan 3;104(1):e41227.	Original Article
224	Ohba S, Shido R, Yamamoto H, et al	口腔外科	Maxillary sinus floor augmentation using sponge- and cotton-like graft materials in a rabbit model.	J Oral Biosci. 2025 Mar;67(1):100586.	Original Article
225	Miura KI, Sumi M, Umeda M, et al	口腔外科	A Case of Diffuse Sclerosing Osteomyelitis (DSO) Initially Diagnosed as Bacterial Mandibular Osteomyelitis and Successfully Treated With Bisphosphonate Administration (Ibandronate).	Cureus. 2024 Dec 22;16(12):e76210. (オンライン)	Case Report
226	Ishizaki T, Uto Y, Inaba N, et al	口腔・顎・顔面インプラントセンター	Effects of thread design on soft and hard tissue healing around implants in lipopolysaccharide-induced peri-implantitis-like lesions in rat maxillae.	J Oral Biosci. 2025 Mar;67(1):100620.	Original Article
227	Takenaka H, Yoshida K, Sawase T	口腔・顎・顔面インプラントセンター	Wear characteristics of resin-based luting agents used in the bonded CAD-CAM resin blocks.	Dent Mater J. 2024 Dec 10;43(6):772-779.	Original Article
228	Tsuda F, Yoshida K, Sawase T	口腔・顎・顔面インプラントセンター	Effects of primer components of silane and 10-methacryloyloxydecyl dihydrogen phosphate on resin bonding to tribochemical silica-coated highly translucent zirconia.	Clin Oral Investig. 2024 Nov 12;28(12):638. (オンライン)	Original Article
229	Odatsu T, Valanezhad A, Shinohara A, et al	口腔・顎・顔面インプラントセンター	Bioactivity and antibacterial effects of zinc-containing bioactive glass on the surface of zirconia abutments.	J Dent. 2024 Jun;145:105033.	Original Article
230	Kubo K, Igaue S, Utsunomiya D, et al	がん診療センター	Preoperative neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts recurrence of esophageal squamous cell carcinoma after neoadjuvant triplet chemotherapy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Dec;72(12):802-809.	Original Article
231	Mitsumoto-Kaseida F, Murata M, Ota K, et al	検査部	genome multilocus sequence typing and polymerase chain reaction-based open reading frame typing in tracing nosocomial methicillin-resistant Staphylococcus aureus transmission.	J Infect Chemother. 2025 Jan;31(1):102461.	Original Article
232	Nakao T, Kosai K, Akamatsu N, et al	検査部	Molecular and phenotypic characterization of Streptococcus pneumoniae isolates in a Japanese tertiary care hospital.	Front Cell Infect Microbiol. 2024 Jul 22;14:1391879. (オンライン)	Original Article
233	Kosai K, Matsumoto K, Ishikawa T, et al	検査部	Clinical Evaluation of a Rapid Reciprocal-Flow PCR Assay and Real-Time PCR Assay with Quenching Probe for Detection of Mycobacterium tuberculosis Complex.	Microorganisms. 2025 Jan 17;13(1):201. (オンライン)	Original Article
234	Kaku N, Ishige M, Yasutake G, et al	検査部	Long-term impact of molecular epidemiology shifts of methicillin-resistant Staphylococcus aureus on severity and mortality of bloodstream infection.	Emerg Microbes Infect. 2025 Jan;14(1):2449085.	Original Article

235	Caranfil E, Lami K, Uegami W, et al	病理診断科・病理部	Artificial Intelligence and Lung Pathology.	Adv Anat Pathol. 2024 Sep 1;31(5):344–351.	Original Article
236	Okoshi EN, Fujita S, Lami K, et al	病理診断科・病理部	Progression to invasive carcinoma: cellular activities and immune-related pathways define the lepidic and acinar subtypes of lung adenocarcinoma.	Pathology. 2025 Feb 22:S0031–3025(25)00087–X.	Original Article
237	Lami K, Yoon HS, Parwani AV, et al	病理診断科・病理部	Validation of prostate and breast cancer detection artificial intelligence algorithms for accurate histopathological diagnosis and grading: a retrospective study with a Japanese cohort.	Pathology. 2024 Aug;56(5):633–642.	Original Article
238	Zaizen Y, Tsumura K, Ohta K, et al	病理診断科・病理部	A Case Presenting with Magnesium Oxide Broncholiths.	Intern Med. 2024 Dec 5.	Original Article
239	Tachibana Y, Hara M, Hashisako M, et al	病理診断科・病理部	Squamous metaplasia is an indicator of acute exacerbation in patients with usual interstitial pneumonia / idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Investig. 2024 Jul;62(4):631–637.	Original Article
240	Kim SE, Noda R, Liu YC, et al	病理診断科・病理部	Novel integrated multiomics analysis reveals a key role for integrin beta-like 1 in wound scarring.	EMBO Rep. 2025 Jan;26(1):122–152.	Original Article
241	Park S, Shimokawa I	病理診断科・病理部	Influence of Adipokines on Metabolic Dysfunction and Aging.	Biomedicines. 2024 Apr 15;12(4):873. (オンライン)	Original Article
242	Koike H, Nishimura T, Morikawa M	放射線部→放射線科	Quantitative evaluation of pulmonary hypertension using 4D flow MRI: A retrospective study.	Heliyon. 2024 May 17;10(10):e31177. (オンライン)	Original Article
243	Koike H, Sueyoshi E, Somagawa C, et al	放射線部→放射線科	CT findings, prognosis, and follow-up of pulmonary artery periaortic hematoma with aortic dissection: a retrospective single-center study.	J Thorac Dis. 2024 May 31;16(5):3031–3041.	Original Article
244	Perinpanathan T, Beckett K, Smith C	臨床研究センター	Actinomyces funkei bacteraemia and infected pulmonary cavities in an intravenous drug user: a case report.	Trop Med Health. 2024 Aug 26;52(1):55. (オンライン)	Original Article
245	Komori A, Kugiyama Y	臨床研究センター	Hard-to-treat autoimmune hepatitis and primary biliary cholangitis: The dawn of a new era of pharmacological treatment.	Clin Mol Hepatol. 2025 Jan;31(1):90–104.	Original Article
246	Hara K, Tachibana R, Kaneko S, et al	看護部	Development of an estimation formula for preparation time of anesthesia induction and surgery accounting for clinical department factors in optimal surgery schedule management.	Sci Rep. 2024 Oct 24;14(1):25185. (オンライン)	Original Article
247	Hara K, Kanda M, Kuwabara H, et al	看護部	Association between the quantity of stroke care units and the complement of neurosurgical and neurology specialists in Japan: A retrospective study.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2024 Aug;33(8):107734.	Original Article
248	Nakao N, Ohba S, Shido R, et al	口腔管理センター	A case of masticatory muscle tendon–aponeurosis hyperplasia revealed after orthognathic surgery	ORAL SCI INT.2024 AUG;22(1):7	Original Article
249	Matsuo T, Mori S, Honda H, et al	泌尿器科・腎移植外科	Effectiveness of Japanese traditional medicine yokukansan for nocturia due to sleep disorders	TRADIT KAMPO MED.2024 AUG;11(2):8	Original Article

250	Yokoyama S, Nabatame K, Suzuki A, et al	国際ヒバクシャ医療センター	Review of Articles Related to the Accident of TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Published in the Japanese Journal of Health Physics: Overview (Secondary Publication)	J RADIAT PROT RES.2024 DEC:49(4):5	Review
251	Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Orita M, et al	国際ヒバクシャ医療センター	The Relationship Between Years of Service and Traumatic Experiences Related to Radiation Among Local Government Staff Working Within 30 km of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station	J DISASTER RES.2024 OCT:19(5):7	Original Article
252	Zar WT, Lochard J, Kalinowski MB, et al	国際ヒバクシャ医療センター	What On-site Inspectors Under the Comprehensive Nuclear-Test-Ban Treaty Can Learn from The "Co-expertise Process" Experiences Implemented After the Chernobyl and Fukushima Nuclear Power Plant Accidents?	PURE APPL GEOPHYS.2024 MAY:11	Review
253	Iwanaga N, Ota A, Ashizawa H, et al	呼吸器内科	Clarithromycin Modulates Neutrophilic Inflammation Induced by Prevotella intermedia in Human Airway Epithelial Cells	Antibiotics (Basel). 2024 Sep 23;13(9):909.	Original Article
254	Eijiro Sakamoto, Yukiko Kitase, Alexander J Fitt, et al	歯科治療保存室	Both enantiomers of β -aminoisobutyric acid BAIBA regulate Fgf23 via MRGPRD receptor by activating distinct signaling pathways in osteocytes.	Cell reports 43(7) 114397–114397.2024 Jul 23;43(7)	Original Article
255	Daisuke Nakamura , Koichi Honda , Takuya Yamazaki,et al	放射線科	Stereotactic body radiation therapy for clinically diagnosed early-stage non-small cell lung cancer: Importance of accurate CT interpretation by experts	Precis Radiat Oncol. 2024 Mar 10;8(1):30–36.	Original Article
256	Ryo Toya , Yoshiyuki Fukugawa , Tetsuo Saito, et al.	放射線科	Radiation Therapy Oncology Group 8502 "QUAD shot" regimen using volumetric modulated arc therapy for incurable head and neck cancer	Oral Oncol. 2024 Apr:151:106752	Original Article
257	Shuhei Miyazaki , Yutaro Tasaki, Mika Nakatake , et al.	放射線科	Dose-escalated Salvage Whole-pelvic Radiotherapy for Biochemical Recurrence After Radical Prostatectomy for High-risk Prostate Cancer	Cancer Diagn Progn. 2024 May 3;4(3):315–319.	Original Article
258	Yutaro Tasaki , Takuya Yamazaki , Shuhei Miyazaki, et al	放射線科	Additional chemoradiotherapy for superficial esophageal squamous cell carcinoma after near-circumferential or full-circumferential noncurative endoscopic submucosal dissection: a retrospective study	BMC Gastroenterol. 2024 Jul 23;24(1):232	Original Article
259	Koichi Honda , Hirofumi Koike , Shin Tsutsui ,et al	放射線科	Autoimmune pulmonary alveolar proteinosis presenting as localized multifocal GGOs: A case report	Radiol Case Rep. 2024 Sep 20;19(12):6072–6075.	Case report
260	Kentaro Nomura, Masato Tomita, Kishio Kuroda, et al.	放射線科	Overdiagnosis of atypical lipomatous tumors/well-differentiated liposarcomas by morphological diagnosis using only HE stained specimens: a case-control study with MDM2/CDK4 immunostaining and MDM2/CDK4 fluorescence in situ hybridization.	BMC Cancer 2024 Nov 21;24:1437	Original Article
261	Shiro Kajiyama, Ko Chiba, Tatsunari Aoki, et al.	放射線科	Associations between fatty infiltration of rotator cuff muscles and tear size or location of rotator cuff tendon.	Front Surg 2024 Aug 22;11:1416921	Original Article
262	Iku Tomonaga, Hironobu Koseki, Chieko Imai, et al.	放射線科	Incidence and characteristics of aspiration pneumonia in the Nagasaki Prefecture from 2005 to 2019.	BMC Pulm Med 2024 Apr 20;24:191	Original Article
263	Kounosuke Watanabe, Ko Chiba, Kazuteru Shiraishi, et al.	整形外科	Microarchitectural analysis of the metacarpophalangeal joint using HR-pQCT in patients with rheumatoid arthritis: A comparison with healthy controls.	Bone 2024 Dec:189:117250	Original Article

264	Ryosuke Takahashi, Ko Chiba, Narihiro Okazaki, et al.	整形外科	Effects of daily teriparatide, weekly high-dose teriparatide, or bisphosphonate on cortical and trabecular bone of vertebra and proximal femur in postmenopausal women with fragility fracture: Sub-analysis by quantitative computed tomography from the TERABIT study.	Bone 2024 Oct;187:117189	Original Article	計 264件
-----	---	------	--	--------------------------	------------------	--------

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない);巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別	計 0件
1					Original Article	
2					Case report	
3						
～						

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ヘルシンキ宣言その他研究等の領域に則した倫理に関する指針等の趣旨に沿った倫理的配慮を踏ることを目的とし、新規申請に係る手続き・臨床研究実施中及び終了時の手続き等について記載している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 長崎大学及び長崎大学病院には以下の指針や規程が存在する。 「長崎大学利益相反マネジメントポリシー」 「長崎大学における臨床研究に係る利益相反ポリシー」 「長崎大学における臨床研究に係る利益相反管理指針」 「長崎大学病院利益相反審査委員会規程」 臨床研究利益相反審査委員会は「利益相反審査自己申告書」により利益相反の管理を行う。申告書により利益相反が明らかな場合、利益相反審査委員会は、申告書に添付された臨床研究実施計画書に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理委員会又は治験審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集・調査及びフォローアップを行う。（「長崎大学における臨床研究に係る利益相反管理指針」より）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 5 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>○ 臨床研究に関する研修会（2 5 回 （内訳：オンライン研修会 2 3 回、現地開催 2 回））</p> <p>内容：臨床研究初心者研修（指針）、臨床研究初心者研修（法）、臨床研究における安全性報告時の留意点－関連用語の説明、報告時の記載ポイントほか、特定臨床研究をおこなう上でのポイント、適切な研究実施のために知っておくべきこと 等</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

長崎大学病院では、日本専門医機構に準ずる基本 19 領域のプログラムがあり、県内外の関連病院、海外の拠点病院と連携して、高度専門医療を研修できるシステムを構築している。大学病院連携型高度医療人養成推進事業により発足した医師育成キャリア支援室では、これまで個人で専門医の資格を取るために行っていたことを、大学病院が全面的にサポートし、できるだけ短期間で効率よく専門医資格を修得できるよう、専門のコーディネーターによる支援を行っている。

歯科においては、1年の初期臨床研修に引き続き専門歯科医師の養成、地域歯科医療のリーダー育成および高齢者や有病者における全身管理を実践できる歯科医師の養成を目的として、後期臨床研修を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	54人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
川上 純	リウマチ・膠原病内科	教授	40年	
川上 純	内分泌・代謝内科	教授	40年	
辻野 彰	脳神経内科	教授	35年	
迎 寛	呼吸器内科	教授	40年	
西野 友哉	腎臓内科	教授	28年	
宮明 寿光	消化器内科	教授	28年	
前村 浩二	循環器内科	教授	39年	
宮崎 泰司	血液内科	教授	39年	
泉川 公一	総合感染症科	教授	30年	
伊達木 澄人	小児科	准教授	24年	
室田 浩之	皮膚科・アレルギー科	教授	29年	
熊崎 博一	精神科神経科	教授	21年	
松本 桂太郎	呼吸器外科/乳腺・内分泌外科	教授	29年	
金高 賢悟	胃・食道外科	教授	30年	
野中 隆	大腸・肛門外科	教授	23年	
江口 晋	肝胆膵・移植外科/小児外科	教授	33年	
三浦 崇	心臓血管外科	教授	25年	
尾崎 誠	整形外科	教授	34年	
三浦 清徳	産科婦人科	教授	30年	
大石 明生	眼科	教授	24年	
熊井 良彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	26年	
今村 亮一	泌尿器科・腎移植外科	教授	29年	
松尾 孝之	脳神経外科	教授	36年	
東家 亮	放射線科	教授	22年	
原 哲也	麻酔科	教授	33年	
中島 正洋	病理診断科	教授	33年	

柳原 克紀	臨床検査科	教授	34年	
田崎 修	救急科	教授	35年	
檜山 和也	形成外科	教授	22年	
前田 隆浩	総合診療科	教授	40年	
高畠 英和	リハビリテーション科	教授	32年	
鵜飼 孝	歯科	教授	29年	
吉田 教明	矯正歯科	教授	39年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容；昇任者研修（看護師長）・研修の期間・実施回数：令和7年3月6日・7日 計2回・研修の参加人数：4名
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：昇任者研修（副看護師長）・研修の期間・実施回数：令和7年3月6日・7日 計2回・研修の参加人数：3名
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：看護管理者研修（看護師長・副看護師長）・研修の期間・実施回数：令和6年11月16日・17日、令和7年1月18日・19日 計4回・研修の参加人数：66名
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：看護職員向け看護補助者に関わる研修 看護補助者と協働する病棟運営（学研ナーシングサポート、看護管理者特別コースⅡ）、 医療制度の概要および病院の機能と組織の理解（学研ナーシングサポート、看護補助者 コース）、看護補助者業務マニュアル閲覧・研修の期間・実施回数：随時・研修の参加人数：117名
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器）・研修の期間・実施回数：令和6年7月8日・1回・研修の参加人数：3名
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器）・研修の期間・実施回数：令和6年10月8日、10日・2回・研修の参加人数：16名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（ハイフローセラピー装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年10月17日・1回 ・研修の参加人数：14名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器） ・研修の期間・実施回数：令和6年10月17日・1回 ・研修の参加人数：12名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器） ・研修の期間・実施回数：令和6年10月18日・1回 ・研修の参加人数：12名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（体外式ペースメーカー） ・研修の期間・実施回数：令和6年10月25日・1回 ・研修の参加人数：14名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（麻酔器） ・研修の期間・実施回数：令和6年11月18日・1回 ・研修の参加人数：17名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：診療支援技術研修（心房細動アブレーション） ・研修の期間・実施回数：令和6年12月9日・1回 ・研修の参加人数：23名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（ハイフローセラピー装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年12月13日・1回 ・研修の参加人数：8名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月5日・1回 ・研修の参加人数：7名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：診療支援技術研修（PSVTアブレーション） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月14日・1回 ・研修の参加人数：16名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（セントラルモニタ） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月17日・1回 ・研修の参加人数：8名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療機器の操作・管理研修（人工呼吸器） ・研修の期間・実施回数：令和7年3月11日・1回 ・研修の参加人数：7名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：各病棟看護師スタッフ等への研修講義 ・研修の期間・実施回数：令和6年 5月9日・8月19日・9月18日・11月27日・11月29日・ 12月4日・12月17日 令和7年 1月24日・3月12日 計9回 ・研修の参加人数：令和6年 5月9日 8名・8月19日 36名・9月18日 13名・11月27日 10名・ 11月29日 13名・12月4日 6名・12月17日 11名 令和7年 1月24日 9名・3月12日 16名 計122名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：長崎大学病院 緩和ケア研修会 ・研修の期間・実施回数：令和6年8月31日・年1回 ・研修の参加人数:54名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：看護師特定行為研修 臨床薬理学講義 ・研修の期間・実施回数：令和6年9月24日～27日 ・研修の参加人数:9名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：看護師特定行為研修 2型糖尿病の薬物治療 ・研修の期間・実施回数：令和6年9月24日 ・研修の参加人数：11名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：NST学習会 ・研修の期間・実施回数：e-learning 年1回 実地研修 令和6年10月21日～23日・30日・31日 ・研修の参加人数：e-learning 20名 実地研修 令和6年10月21日～23日 16名 10月30日・31日 16名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：看護師専門コース 臨床薬理学講義 ・研修の期間・実施回数：令和6年11月13日・年1回 ・研修の参加人数：3名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：臨床研究に関する研修会 ・研修の期間・実施回数：令和6年12月5日 ・研修の参加人数：114名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：医療の安全を確保するための従業者に対する研修（医療法第6条の12） ・研修の期間・実施回数：月1回（実施回数：12回（月1回×12回）） ・研修の参加人数：看護師・看護助手 149名、医療技術職員 25名、事務職員等 81名
看護研修については、別紙「2024年度 看護研修」のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（人工呼吸器 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年5月22日・1回 ・研修の参加人数：153名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（閉鎖式保育器 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年6月24日・1回 ・研修の参加人数：118名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（血液浄化装置 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年7月23日・1回 ・研修の参加人数：127名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（除細動装置 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年8月7日・1回 ・研修の参加人数：151名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（診療用放射線照射装置 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年8月23日・1回 ・研修の参加人数：10名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（診療用高エネルギー発生装置 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年8月28日・1回 ・研修の参加人数：7名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（人工心肺装置及び補助循環 前期） ・研修の期間・実施回数：令和6年9月19日・1回 ・研修の参加人数：143名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（人工呼吸器 後期） ・研修の期間・実施回数：令和6年11月21日・1回 ・研修の参加人数：150名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（閉鎖式保育器 後期） ・研修の期間・実施回数：令和6年12月4日・1回 ・研修の参加人数：122名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（血液浄化装置 後期） ・研修の期間・実施回数：令和7年1月23日・1回 ・研修の参加人数：109名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（除細動装置 後期） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月6日・1回 ・研修の参加人数：111名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（診療用高エネルギー発生装置 後期） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月27日・1回 ・研修の参加人数：15名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（診療用放射線照射装置 後期） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月27日・1回 ・研修の参加人数：15名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：特定機能病院における定期研修会（人工心肺装置及び補助循環 後期） ・研修の期間・実施回数：令和7年3月24日・1回 ・研修の参加人数：117名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（循環動態モニタ） ・研修の期間・実施回数：令和6年4月18日・1回 ・研修の参加人数：49名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（IABP装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年4月24日、5月16日、6月17日・3回 ・研修の参加人数：134名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（X線TV装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年5月7日、8日・2回 ・研修の参加人数：30名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（咽頭ストロボスコプ装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年5月22日・1回 ・研修の参加人数：29名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（血液凝固分析装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年6月25日、26日・2回 ・研修の参加人数：27名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（ナビゲーションシステム） ・研修の期間・実施回数：令和6年10月4日・1回 ・研修の参加人数：12名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（瞳孔記録計） ・研修の期間・実施回数：令和6年11月7日・1回 ・研修の参加人数：28名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（ICG蛍光観察装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年12月12日・1回 ・研修の参加人数：12名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（診断用X線撮影装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年12月19日、20日・2回 ・研修の参加人数：31名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（超音波画像診断装置） ・研修の期間・実施回数：令和6年12月23日、26日・2回 ・研修の参加人数：3名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（汎用超音波画像診断装置） ・研修の期間・実施回数：令和7年1月21日～23日・3回 ・研修の参加人数：3名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（診断用X線撮影装置） ・研修の期間・実施回数：令和7年1月23日、24日・2回 ・研修の参加人数：29名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（電動式骨手術機） ・研修の期間・実施回数：令和7年1月28日、29日・2回 ・研修の参加人数：19名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（電動式骨手術機） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月6日・1回 ・研修の参加人数：18名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（輸液ポンプ） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月12日、13日・2回 ・研修の参加人数：93名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（電動式可搬型吸引器） ・研修の期間・実施回数：令和7年2月28日・1回 ・研修の参加人数：9名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修 （歯科技工室設置型コンピュータ支援設計・製造ユニット） ・研修の期間・実施回数：令和7年3月4日・1回 ・研修の参加人数：5名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（汎用超音波画像診断装置） ・研修の期間・実施回数：令和7年3月6日・1回 ・研修の参加人数：6名

<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新しい医療機器の導入時の研修（アーム型X線CT診断装置） ・研修の期間・実施回数：令和7年3月10日・1回 ・研修の参加人数：17名
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：新採用薬剤師研修プログラム ・研修の期間・実施回数：6か月間（調剤業務48回、注射薬室業務30回、抗癌剤調剤6～8回、麻薬業務2回） ・研修の参加人数：2名（勤務1年目の薬剤師）
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：薬剤管理指導業務研修 ・研修の期間・実施回数：4か月間、週2時間 ・研修の参加人数：2名（勤務1年目の薬剤師）
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容：休日TDM測定業務研修 ・研修の期間・実施回数：2か月間、計3回 ・研修の参加人数：7名（勤務2年目の薬剤師）
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 尾崎 誠	
管理担当者氏名	放射線部長 東家 亮 感染制御教育センター長 泉川 公一 総務課長 山田 一岳 医事課長 溝口 明邦	
	薬剤部長 大山 要 ME機器センター長 原 哲也 医療支援課長 柳川 順平	

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。 診療録の院外への持ち出しについては、「長崎大学病院における診療録等の貸出等の運用手引き」および「長崎大学病院における個人を特定できる情報を含む医療情報等の外部持ち出しに関する申合せ」により、原則として禁止している。 ※手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書については、電子カルテ及び紙媒体にて、診療情報管理室で管理・保管している。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	※	
		看護記録	※	
		検査所見記録	※	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	※	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	※	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課・医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課 感染制御教育センター	施錠可能な部屋にある キャビネット内に書面にて保管。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課 感染制御教育センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課 感染制御教育センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課 感染制御教育センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME機器センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	施錠可能な部屋にあるキャビネット内に書面にて保管。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
		管理者が有する権限に関する状況	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 近藤 政美
閲覧担当者氏名	総務課長 山田 一岳
閲覧の求めに応じる場所	総務課
閲覧の手続の概要	
長崎大学広報戦略本部において「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づき、法人文書開示請求手続きを行っている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数		延	0	件
閲 覧 者 別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理に関する基本的考え方 ○医療安全管理委員会及びその他の組織に関する基本的事項 ○医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 ○患者等からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）</p> <p>○医療安全管理委員会</p> <p>・ 開催状況：年 15 回（うち臨時開催 3 回）</p> <p>○リスクマネージャー会議</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全に関する対策の推進 ○医事紛争及び医療事故等、問題発生した場合の調査及び分析 ○医療安全のための教育及び研修 ○医療安全のためのマニュアル作成等 ○医療安全に関する情報収集 ○医薬品安全管理専門部医療機器安全管理専門における審議内容に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>1. 令和 6 年度第 1 回医療安全研修会 令和 6 年 6 月 20 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「転倒・転落の概説」 当院安全管理部 医師 GRM 辻良香 ②「転倒・転落の予防とその後の対応」 当院安全管理部 張岳輝子副看護師長 ③「転倒・転落と薬剤について」 当院安全管理部 薬剤師 GRM 里加代子 	

2. 令和6年度第2回医療安全研修会 令和6年9月3日開催

①「気づいてあげたい院内発生脳卒中」

当院脳神経内科 講師 立石洋平

②「RRS/RRTについて」

当院安全管理部 部長 栗原慎太郎

3. 令和6年度第3回医療安全研修会 令和6年11月19日開催

①「なぜ『患者参加型医療』が医療安全に欠かせないのか」

医療情報の公開・開示を求める市民の会 代表世話人 勝村久司氏

②「臨床研究有害事象報告について」

当院臨床研究センター 教授 細萱直希

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

・医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・その他の改善のための方策の主な内容：

○医療安全管理マニュアルの改訂

○医薬品安全管理手順書の改訂

○インシデントレポート報告システムの改良

○医療安全ポケットマニュアルの改訂

○安全管理部員等による院内巡視

○安全管理部コア会議（週1回実施）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1) 院内感染対策委員会の設置、2) 職員研修の実施、3) 病院感染発生時の対応、4) 院内感染対策マニュアルの策定、5) 院内感染防止に関する患者への情報提供と説明、6) その他の病院における院内感染対策の推進 以上について明記。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(構成員)</p> <p>病院長(委員長)、感染制御教育センター長(院内感染管理者)、ほか委員数12名、計14名全員の出席をもって開催される。</p> <p>(開催回数内訳)</p> <p>定例開催(毎月1回(8月は休会))計11回</p> <p>(検討事項)</p> <p>耐性菌の発生状況、手指衛生遵守状況、ICTラウンド、COVID-19感染状況等の報告及び院内における感染症の予防及び発生対策等に関する事項の審議を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <p>1. 令和6年度第1回院内感染対策・抗菌薬適正使用合同講習会</p> <p>①「微生物検査における検体採取のポイント」</p> <p>当院検査部微生物検査室 赤松紀彦先生</p> <p>②「経口キノロン系抗菌薬の処方現状と問題点」</p> <p>当院薬剤部 福重友理先生</p> <p>当院感染制御教育センター 柿内聡志先生</p> <p>2. 令和6年度第2回院内感染対策・抗菌薬適正使用合同講習会</p> <p>①「当院の抗菌薬適正使用について」</p> <p>当院感染制御教育センター 泉川公一先生</p> <p>②「「感染制御」との出会い～ICNとして歩んだ道～」</p> <p>東京医療保健大学医療保健学部</p> <p>看護学会/大学院 医療保健学研究科 菅原えりさ先生</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p>	

・その他の改善のための方策の主な内容：

院内で検出された耐性菌、無菌検体からの微生物検出状況は毎朝の会議にて微生物検査室から報告を受けている。新型コロナウイルス感染症を含む伝染性疾患に関する塗抹情報や抗原検出状況はリアルタイムに報告がある。そのうち、院内感染対策上重要な微生物が検出された場合はその都度、検出された部署へ赴き、実際の感染対策を指導し、記録を保存している。

また、週に1回は病棟、外来、中央診療棟などを多職種からなるICTチームでラウンドし、感染対策の現状の把握とon the job trainingを実践している。

さらに、広域抗菌薬・抗真菌薬使用患者を土曜、休日以外の連日、ピックアップし、薬剤師を中心に医師・看護師・検査技師で構成されるASTチームでカンファレンスを行い、必要に応じて主治医にカルテ上でのコメントを通じて抗菌薬適正使用支援（ASP）活動を行っている。なお、本活動の一環として、連日、微生物検査室からの報告を用いて血液培養ラウンドを行い、感染症診療支援、抗菌薬適正使用支援を行っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○令和6年度第1回医療安全研修会「転倒・転落と薬剤について」</p> <p>講 師：安全管理部 薬剤師GRM 里加代</p> <p>実 施 日：2024年6月20日（集合研修＋イントラネット動画研修）</p> <p>受講人数：研修会 192人</p> <p> イントラネット動画研修 2,284人</p> <p> 計 2,476人（97.2%）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項（改訂あり） 2. 医薬品の管理に関する事項（購入～薬剤部内の管理）（改訂あり） 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項（改訂あり） 4. 患者に対する服薬指導に関する事項（改訂あり） 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（改訂あり） 6. 病棟、中央診療部門、外来における医薬品の管理（改訂あり） 7. 他施設（病院等、薬局等）との連携に関する事項 8. 輸血・血液管理担当部門と責任者の設置等 9. 薬剤投与のための機器使用 10. 放射性医薬品の管理 11. 臨床検査薬の管理 12. 造影剤の管理、使用 13. 血液浄化療法部門 14. 外来化学療法部門 15. 院内製剤の取り扱いについて（改訂あり） 16. 未承認新規医薬品の使用及び医薬品医療機器等の適応外使用について（改訂あり） 17. 当該手順書の順守状況の確認 <p>実施状況：年1回順守状況のチェックを各部署で行い、その内容を医薬品安全管理責任者がすべて確認している。問題があれば改善のための指導を行う。</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ☐ 無)

・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

・ その他の改善のための方策の主な内容：

【収集方法】

未承認等の医薬品の使用情報について、病棟薬剤管理指導業務、調剤時の疑義照会、院内製剤を担当する製剤室での問い合わせ対応等で収集し、未承認新規医薬品に関しては担当部署である医薬品安全管理専門部（以下、薬専）で把握している。その他の適応外使用・禁忌薬等については、薬剤部において、薬剤交付時の鑑査や入院患者に対する病棟薬剤業務において把握したものを記録している他、診療科からの申請・報告により薬専でも把握している。医薬品の採用時には、添付文書他、IF、文献等を収集している。添付文書等の改訂については、各メーカーのMRから連絡、DSUなどの発信について確認を行い、最新の添付文書等を入手するようにしている。

【周知方法】

未承認新規医薬品に関しては、薬専の委員長が医療安全管理委員会で報告する。その他の適応外使用・禁忌薬等に関しても、把握した件数を医療安全管理委員会へ報告し、院内に周知している。また、上記委員会で承認された未承認新規医薬品等は、薬剤部内のイントラネットに掲載し、情報を共有・周知している。さらに、上記で収集された適応外・禁忌薬の情報はプレアボイド事例としてまとめ、医療安全管理委員会で院内に周知している。プレアボイド事例の中から抽出した事例をもとに医薬品適正使用情報を作成し、RM会議で周知している。

採用薬に関しては、改訂された情報の全てを、薬剤部各部署へ文書で通知している。特に重要な情報は、病棟担当薬剤師によるカンファで情報提供する場を設けている。

病棟、診療科（診療科長、医局長）、中央診療部（部長、副部長等）に対しては、緊急安全性情報、安全性速報、DSU、医薬品医療機器等安全性情報、DI news等を用いて情報発信を行っている。緊急安全性情報、安全性速報については、該当医薬品を使用している医師に対し、電子カルテのコミュニケーション機能や面談による文書交付にて周知している。

また、薬剤部イントラネットには、薬剤部より発信した医薬品の安全使用に関わる情報の記録を全て掲載し、常に確認できるようにしている。さらに、院内医薬品情報検索システム（DICS）には、改訂された添付文書の情報が更新されるまで、新しい添付文書のPDFファイルを掲載している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年66回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○新しい医療機器の導入時の研修</p> <p>○特定機能病院における定期研修</p> <p>○使用者要望による医療機器操作研修</p> <p>○有効性・安全性に関する事項</p> <p>○使用方法に関する事項</p> <p>○保守点検に関する事項</p> <p>○不具合が発生した場合の対応に関する事項</p> <p>○使用に関して特に法令上遵守すべき事項 など</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>○人工呼吸器 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○輸液ポンプ : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○シリンジポンプ : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○経腸栄養ポンプ : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○除細動器 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○閉鎖式保育器 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○人工心肺装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○IABP : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○経皮的補助循環装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○フットポンプ : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○体外式ペースメーカー : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○補助人工心臓駆動装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○麻酔器 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○電気手術器 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○内視鏡 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○内視鏡装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○直線加速装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○診療用放射線照射装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○放射線関連装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p> <p>○CT装置 : 外観点検、性能・機能点検など</p>	

○MRI装置	: 外観点検、性能・機能点検など
○心電計	: 外観点検、性能・機能点検など
○脳波計	: 外観点検、性能・機能点検など
○超音波診断装置	: 外観点検、性能・機能点検など
○AED	: 外観点検、性能・機能点検など
○血液浄化装置	: 外観点検、性能・機能点検など
○透析液作製関連装置	: 外観点検、性能・機能点検など
○手術支援ロボットシステム	: 外観点検、性能・機能点検など
○超音波手術器	: 外観点検、性能・機能点検など
○歯科関連機器	: 外観点検、性能・機能点検など

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：

非吸収性骨再生用材料（採用品名：Tiハニカムメンブレン）を使用目的及び効果違いとして、骨補填剤に使用。

回収式自己血輸血（採用品名：エクストラ）を適応外として、悪性腫瘍手術、準清潔手術に使用。
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

日本医療機能評価機構やPMDA、製造販売企業などからの情報を収集し、医療安全管理委員会や安全管理部、リスクマネージャー会議へ報告すると共に、RMニュースとして各リスクマネージャーへメールで配信し、リスクマネージャーから所属スタッフへ周知を行っている。

機器の取扱説明書や添付文書を院内どこからでも閲覧可能なシステムを構築している。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 責任者の資格 <input checked="" type="radio"/> (医師) <input type="radio"/> (歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>安全担当の副病院長は、医療安全管理責任者として、医療安全管理部門である安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を管理し、病院長と医療安全に資する対策の指示と確認を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (13名) <input type="radio"/> 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>① <u>医薬品情報資料の収集・整理・保管及び情報の加工と専門的評価</u></p> <p>(1) インターネットを利用した情報収集</p> <p>(2) 学術雑誌等よりの情報収集</p> <p>(3) 製薬会社の医薬情報担当者 (MR : medical representatives) より情報収集</p> <p>(4) 病棟薬剤師業務担当者・薬剤管理指導業務担当者による情報収集</p> <p>(5) 資料の整理・保管・管理</p> <p>(6) 書籍・雑誌等の購入</p> <p>(7) 添付文書改訂等に対応したオーダマスタ更新</p> <p>(8) 院内副作用情報 (PMDA 報告) の重篤度およびリスクの評価</p> <p>② <u>医薬品に関する情報の伝達</u></p> <p>(1) 医薬品集の作製・改訂</p> <p>(2) 全診療科・病棟・中央診療部への定期的な情報伝達</p> <p>(3) 病棟薬剤師業務担当者・薬剤管理指導業務担当者への情報提供</p> <p>(4) 病棟薬剤師業務担当者・薬剤管理指導業務担当者との情報共有</p> <p>(5) 他の病院薬局への情報提供</p> <p>(6) 院内副作用情報 (PMDA 報告) の伝達 (医療安全管理委員会ならびに診療科長等会議)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認新規医薬品に関しては、医薬品安全管理責任者が委員長を務める医薬品安全管理専門部 (以下、薬専) において、未承認新規医薬品等評価委員会の意見を参考に申出の受付と使用の可否等を決定する業務を担当している。</p> <p>その他の未承認等の医薬品の使用状況については、薬剤部による使用状況の把握と必要に応じた提案等の業務を行っている他、薬専でも把握している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 <input checked="" type="radio"/> (有) <input type="radio"/> (無)</p>	

・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部、職種：薬剤部長） （所属：内分泌・代謝内科、職種：教授） （所属：移植・消化器外科、職種：教授） （所属：口腔外科、職種：教授） （所属：看護部、職種：看護部長） （所属：医事課、職種：課長）		（所属：安全管理部、職種：安全管理部長） （所属：循環器内科、職種：教授） （所属：皮膚科・アレルギー科、職種：教授） （所属：感染制御教育センター、職種：教授） （所属：薬剤部、職種：副薬剤部長） （所属：小児科、職種：教授）
--	--	---

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 説明に関する責任者は診療情報管理室長が担当し、説明に関するガイドラインを作成、診療録管理を担当する委員会である診療録管理委員会にて、診療録の監査で説明と同意に関する監査項目を確認し、診療部門へフィードバックしている。また、説明・同意において、医師以外の職種の同席基準を定め、説明内容の記載についても説明に関するガイドラインに沿った形でインフォームド・コンセントのテンプレートを作成し運用している。テンプレートに入力されたデータは評価・分析している。 指導内容については、診療録管理委員会及び診療科長等会議で報告している。 また、説明に関するガイドラインについて、見直しを行った。（令和6年6月に改定）	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ○診療録及び退院時要約の記載内容について監査を行い、結果を該当診療科へ通知・指導している。 指導内容について、診療録管理委員会及び診療科長等会議で報告している。 ○規定に基づき診療録を管理し、結果を診療録管理委員会で報告している。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（ 6 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 11 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 3 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 3 ）名 うち看護師：専従（ 3 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 2 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ○医療安全管理マニュアルの改訂 ○安全管理部部員等による院内巡視 ○インシデントレポートの分析 ○死亡事例の把握・検証 ○安全管理部コア会議（週1回実施） ○医療安全研修会について、e-ラーニングにおいてテストを実施し、点数によって評価している。	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（３件）、及び許可件数（３件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術評価部及び高難度新規医療技術評価委員会を設置する。
 - 高難度新規医療技術評価委員会での審議結果を元に当該医療技術実施の可否について判定する。
 - 有害事象が発生した時の当該医療技術の変更、中止、その他当該医療技術に関し必要な事項を決定する。
 - 当該医療技術を適用する全症例について、診療科長から、実施前の連絡書、実施直後、実施１月後・６月後の報告書を提出させる。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（２７件）、及び許可件数（２７件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等を用いた医療、適応外等使用を伴う医療を提供する場合の使用条件、院内製剤を用いた医療を提供する場合の使用条件、使用の適否等の審査
 - 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の改訂
 - 医薬品医療機器等の安全使用のため必要となる情報の収集
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 306 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 61 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○医療安全管理マニュアルの改訂 ○安全管理部部員等による院内巡視 ○インシデントレポートの分析 ○死亡事例の把握・検証 ○安全管理部コア会議（週 1 回実施）
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：岡山大学病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：山口大学医学部附属病院）・無） ・技術的助言の実施状況 特に指摘事項はなかった。
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 医療相談室を設置し、患者家族等からの医学的な質問、医療安全に係る相談等、様々な相談を医療相談室にて一元的に対応し、必要に応じて、助言、情報提供等を行いながら患者家族等を支援している。
<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和 6 年度第 1 回医療安全研修会 令和 6 年 6 月 20 日開催 <ol style="list-style-type: none"> ①「転倒・転落の概説」 当院安全管理部 医師 GRM 辻良香 ②「転倒・転落の予防とその後の対応」 当院安全管理部 張岳輝子副看護師長 ③「転倒・転落と薬剤について」 当院安全管理部 薬剤師 GRM 里加代子 2. 令和 6 年度第 2 回医療安全研修会 令和 6 年 9 月 3 日開催 <ol style="list-style-type: none"> ①「気づいてあげたい院内発生脳卒中」 当院脳神経内科 講師 立石洋平 ②「RRS/RRTについて」 当院安全管理部 部長 栗原慎太郎

3. 令和6年度第3回医療安全研修会 令和6年11月19日開催

- ①「なぜ『患者参加型医療』が医療安全に欠かせないのか」
医療情報の公開・開示を求める市民の会 代表世話人 勝村久司氏
- ②「臨床研究有害事象報告について」
当院臨床研究センター 教授 細萱直希

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、全員が公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する2024年度特定機能病院管理者研修を受講した。

○受講日

管理者(尾崎 誠) : 2025年1月15日

医療安全管理責任者(室田 浩之) : 2025年1月15日

医薬品安全管理責任者(大山 要) : 2024年11月26日

医療機器安全管理責任者(原 哲也) : 2024年12月12日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価：一般病院3」(認定)2025年3月

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

審査結果報告書、確認審査結果報告書、再審査結果報告書を病院ホームページに掲載

・評価を踏まえ講じた措置

診療の質向上や業務改善に継続的に取り組んでいる。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

【長崎大学病院長選考基準より抜粋】

長崎大学病院長となることができる者は、人格が高潔で学識に優れ、かつ、医療法（昭和23年法律第205号）第10条の規定に則った者であるとともに、以下に掲げる資質及び能力等の全ての要件を満たす者とする。

1. 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有する者

高度かつ先端的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、必要な医療安全管理業務の経験及び医療安全管理についての十分な知見を有すること。

※医療安全管理業務とは以下のいずれかの業務をいう。

- ①医療安全管理者、医療機器安全管理責任者の業務
- ②医療安全管理委員会の構成員としての業務
- ③医療安全管理部門における業務
- ④その他上記に準ずる業務

2. 組織管理能力等の長崎大学病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有する者

当院又は当院以外の病院での組織管理経験等、高度な医療を司る特定機能病院の管理上必要な資質及び能力を有し、病院構成員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な変化に適切に対応し、強いリーダーシップを持って病院経営にあたり、適正な管理運営ができること。

※組織管理経験とは以下のいずれかをいう。

- ①病院長又は副病院長の経験
- ②診療科長又は中央診療施設等の長の経験

3. 教育・研究・診療に必要な資質及び能力を有する者

医学教育、医学研究及び高度医療を担うことができる能力を有すること。

4. 地域医療に貢献するために必要な資質及び能力を有する者

長崎県における中核病院として、長崎県や長崎県医師会等と連携し、地域医療の発展に貢献する姿勢及び指導力等を有すること。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）

・ 公表の方法

長崎大学病院ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ <input checked="" type="radio"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		<input checked="" type="radio"/> 有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>【長崎大学病院運営会議規程より抜粋】</p> <p>第2条 運営会議は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 経営・運営方針に関すること。</p> <p>(2) 中期目標・中期計画に関すること。</p> <p>(3) 教育・研究活動に関すること。</p> <p>(4) 規程等の制定及び改廃に関すること。</p> <p>(5) 教育研究組織に関する事項</p> <p>(6) 予算及び決算に関する事項</p> <p>(7) 教員の採用及び昇任に関する事項</p> <p>(8) 教員の再任に関する事項</p> <p>(9) その他病院の管理運営に関する重要な事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>院内ホームページ（イントラネット）に、病院運営会議の議事要旨を掲載している。</p> <p>また、診療科長等会議で病院運営会議の概要報告を行うとともに、事務部においては、課内連絡会で議題内容の報告をするなどして情報共有を行っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>病院ホームページにて公表している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
尾崎 誠	○	医師	病院長/執行役員
西野 友哉		医師	副病院長「総務」
室田 浩之		医師	副病院長「医療安全」
辻野 彰		医師	副病院長「診療」
原 哲也		医師	副病院長「経営」
三浦 清徳		医師	副病院長「研究・教育」

鵜飼 孝		歯科医師	副病院長「歯科統括」
宮原 眞千代		看護師	副病院長「患者支援・看護統括」
近藤 政美		事務職員	副病院長「運営管理・事務統括」
松本 桂太郎		医師	病院長補佐「人事」
宮明 寿光		医師	病院長補佐「広報・評価・国際」
栗原 慎太郎		医師	病院長補佐「医療安全」
泉川 公一		医師	病院長補佐「感染対策」
田崎 修		医師	病院長補佐「災害」
石本 裕士		医師	病院長補佐「外来診療」
松本 武浩		医師	病院長補佐「医療情報」
大山 要		薬剤師	病院長補佐「医薬品」
鋤崎 利貴		理学療法士	病院長補佐「医療機器」
山本 弘史		薬剤師	病院長補佐「研究」
浜田 久之		医師	病院長補佐「教育」
山下 利佳		歯科医師	病院長補佐「歯科」
福崎 龍馬		外部有識者	病院顧問（弁護士法人 ふくざき法律事務所）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
大学ホームページにて公表
- ・ 規程の主な内容
【長崎大学病院規則より抜粋】
（病院長）
第 3 条 本院に、病院長を置く。
2 病院長は、病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

【長崎大学会計規則より抜粋】
（予算責任者）
第 10 条 予算管理単位に予算責任者を置き、部局長をもって充てる。
なお、人事権について、「長崎大学病院副病院長等の選考に関する申合せ」により、各種メディカルスタッフの選考基準が定められており、病院長が指名することとなっている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
管理者（病院長）の職務を補佐する者として副病院長を、病院長及び副病院長の職務のうち特定事項の職務を補佐する者として病院長補佐を置いているほか、病院の管理運営に関する病院長の諮問に応じ意見を具申する役割として病院顧問を置いている。また、病院の管理運営に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が指示する事項を処理する者として病院長特別補佐を置くことができる。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
（人事）
病院長の諮問及び特定の事項の意思決定の機関として運営戦略会議を設置し、執行部（副病院長、病院長補佐）以外でその他病院長が必要と認めた職員（4 名）を参画させることで、次世代の病院のマネジメントを担う人員の育成を図っている。

（研修）
一般社団法人国立大学病院長会議常置委員会の企画・運営担当で開催されている塾へ参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況				<input checked="" type="radio"/> 有・無	
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>【長崎大学病院医療安全監査委員会規程より抜粋】</p> <p>(監査業務)</p> <p>第 2 条 委員会は、次に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 医療安全管理に関する責任者、医薬品安全管理に関する責任者、医療機器安全管理に関する責任者、安全管理部及び医療安全管理委員会が行う業務の状況について病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>(2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>病院ホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
綾部 貴典	宮崎大学医学 部附属病院 医療安全管理 部長	○	医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
川添 志	山下・川添総合 法律事務所 弁護士		医療に係る安全 管理又は法律に 関する識見を有 する者その他の 学識経験を有す る者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
飯田 由紀 子			医療を受ける者 その他の医療従 事者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

監事監査又は監査室による内部監査において、会計業務処理の正確性、法令等との整合性、合理性及び能率性についての会計監査、会計業務以外の運営諸活動が本学の方針・計画制度及び諸規程に従って合法的・合理的及び能率的に行われているかについての業務監査が毎年実施されている。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 公表の方法

大学ホームページにて公表

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会及び経営協議会（学長が指名する職員として病院長が出席）で病院決算状況等について審議を行っていること、並びに、毎年、監事監査を受審していることから、業務の監督体制は整備されている。 ・ 会議体の実施状況 （令和 6 年度）役員会 年 13 回 経営協議会 年 6 回（うち、書面会議 1 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ） （令和 6 年度）経営協議会 年 6 回（うち、書面会議 1 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 無 ） ・ 公表の方法 大学ホームページにて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 通報件数（年〇件）・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 周知の方法 <p>学内に向けて定期的に周知を行っている。</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>地域住民や患者さんの医療機関の選択に資するため、病院ホームページで各診療科の特徴や対象とする疾患について情報提供している。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>複数診療科の医師及び多職種の医療スタッフを構成員としたチーム（褥瘡対策チーム・緩和ケアチーム・糖尿病ケアサポートチーム・栄養サポートチーム・摂食嚥下リハビリテーションチーム・呼吸ケアチーム・精神科リエゾンチーム・退院支援チーム・救急サポートチーム等）を設置し、チーム医療を実践している。</p>	